

令和3年度入学生用  
1年次（令和3年度）開講

# 履修要項

(*syllabus*)

児童教育学科

鹿児島女子短期大学  
Kagoshima Women's College



# 令和3年度入学生 教育課程

別表 第1 児童教育学科教育課程表

授業科目名の前の数字はページ番号

区分	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考	
			卒業履修単位数	必修/選択	1前	1後	2前	2後		
										1前
一般 教 養 科 目	<b>わたしを知る・わたしを創る</b>									
	心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)									
	7	日本語表現の基礎	講義	2		2	2			
	9	倫理学	講義	2		2	2			
	11	アメリカの文化	講義	2		2				
	13	絵本論	講義	2			2			
	15	心理学	講義	2		2	2			
	健康の探求(健康な心と体をつくる)									
		体育講義	講義		1			1		幼教免・小教免・保育士証必修
		体育実技	実技		1				1	
	<b>社会を知る・社会につながる</b>									
	社会の探求(社会に目を向ける)									
	17	社会学	講義		2	2	2			幼教免・小教免必修
	19	日本国憲法	講義		2		2			
	21	歴史学	講義		2	2	2			
	23	総合教養Ⅰ	講義		2	2				
	25	総合教養Ⅱ	講義		2		2			
	キャリアの探求(職業を考え人生を設計する)									
	27	インターンシップ	演習		2	2				
	29	キャリアガイダンス	演習	2		1			1	
	<b>世界を知る・世界を広げる</b>									
	異文化の探求(海外に目を向ける)									
	31	海外事情	演習		2		2			海外研修
	33	英語演習Ⅰ	演習			2				英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語演習のいずれかのⅠ・Ⅱを連続選択履修 *日本語演習は留学生対象科目 参照:別表5 留学生特別科目教育課程表
	37	フランス語演習Ⅰ	演習			2				
	39	中国語演習Ⅰ	演習	2		2				
	41	韓国語演習Ⅰ	演習			2				
	45	日本語演習Ⅰ	演習			2				
	47	英語演習Ⅱ	演習				2			
	51	フランス語演習Ⅱ	演習				2			
53	中国語演習Ⅱ	演習	2			2				
55	韓国語演習Ⅱ	演習				2				
59	日本語演習Ⅱ	演習				2				
自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)										
61	数学基礎	講義		2	2	2				
63	理科基礎	講義		2	2	2				
65	分子からみた生物	講義		2	2	2				
67	人間と環境	講義		2	2	2				
最低修得単位数			6	10	/	/	/	/		
卒業最低修得単位数			16							

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法								開講学期数				備考
				卒業履修単位数		小教免修得単位数		幼教免修得単位数		保育士証修得単位数		1前	1後	2前	2後	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択					
専門科目 (教員免許に関する科目等)		国語(書写を含む)	講義	2	2								2			
		社会	講義	2		2							2			
		算数	講義	2	2							2				
		理科	講義	2		2							2			
		生活	講義	2	2							2				
	71	音楽	演習	2	2					2						
	73	図画工作	演習	2	2					2						
		家庭	講義	2		2							2			
		体育	演習	2	2							2				
		外国語	演習	2	2							2				
	75	国語科指導法	演習	2	2						2					
	77	社会科指導法	演習	2	2					2						
	79	算数科指導法	演習	2	2					2						
		理科指導法	演習	2	2							2				
		生活科指導法	演習	2	2								2			
	81	音楽科指導法	演習	2	2						2					
	83	図画工作科指導法	演習	2	2						2					
		家庭科指導法	演習	2	2								2			
		体育科指導法	演習	2	2								2			
		外国語指導法	演習	2	2								2			
	85	幼児と健康	演習	1			1		1	1						
		幼児と人間関係	演習	1			1		1			1				
		幼児と環境	演習	1			1		1			1				
	87	幼児と言葉	演習	1			1		1	1						
	89	幼児と表現	演習	2			2		2	2						
		保育内容総論	演習	2			2		2				2			
		保育内容(健康)の指導法	演習	2			2		2			2				
		保育内容(人間関係)の指導法	演習	2			2		2				2			
	91	保育内容(環境)の指導法	演習	2			2		2		2					
	93	保育内容(言葉)の指導法	演習	2			2		2	2						
	95	保育内容(表現)の指導法	演習	2			2		2		2					
	97	教育原理	講義	2		2		2	2		2					
99	保育原理	講義	2			2		2	2							
101	教職概論	講義	2		2		2	2	2							
103	教育制度論	講義	2		2		2		2	2						
105	教育心理学▲	講義	2		2		2	2	2							
107	特別支援教育・保育	講義	2		2		2	2		2						
	教育課程・保育計画の意義と編成・評価	講義	2		2		2	2			2					
	道徳教育の指導法	演習	2	2								2				
	総合的な学習の時間の指導法	演習	2	2								2				
	特別活動の指導法	演習	2	2							2					
109	教育の方法・技術	講義	2		2					2						
111	保育の方法・技術	講義				2		2	2							
113	生徒指導・進路指導	講義	2	2						2						
	幼児理解	講義	2			2		2				2				

注: ▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格必修

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法								開講学期単位数				備考							
				卒業履修単位数		小教免修得単位数		幼教免修得単位数		保育士証修得単位数		1前	1後	2前	2後								
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択												
専門科目 (教員免許に関する科目等)	115	教育相談▲	講義	2		2		2		2				2									
		幼稚園教育実習 I 指導	講義		1		1		1					1									
	117	幼稚園教育実習 I	実習	2	2		2							2									
		小学校教育実習指導	講義	1	1																	1	
		小学校教育実習	実習	2	2																	2	
		幼稚園教育実習 II 指導	講義	1																		1	
		幼稚園教育実習 II	実習	2																		2	
		保育・教職実践演習	演習	2					2	2													2
		小学校教職実践演習	演習			2																	2
	119	社会福祉	講義	2		2		2		2			2										
	121	情報機器演習	演習	2		2		2		2			2										
		教師と法	講義		2		2															2	
	123	子どもと人権	講義	1		1		1		1		1		1									
		環境教育演習	演習	1		1																	1
		カウンセリング入門▲	講義	1		1		1		1													1
		生涯学習論	講義	2		2																	2
		家族関係論	講義	2		2		2		2													2
	125	子どもと音楽 I	演習	2				2		2	2		2										
	127	子どもと音楽 II	演習	2				2		2		2											
		子どもと音楽 III	演習	2				2		2													2
		子どもと音楽 IV	演習	2				2		2													2
	129	子どもと造形 I	演習	2				2		2	2		2										
	子どもと造形 II	演習	2				2		2													2	
	子どもと身体表現	演習	2				2		2													2	
	子どもと運動遊び	演習	2				2		2													2	
	読書と豊かな人間性	演習	2		2		2		2													2	
専門科目 (保育士証に関する科目等)	131	子ども家庭福祉	講義	2					2			2											
	133	保育者論	講義	2					2			2											
		子ども家庭支援論	講義	2					2					2									
	135	社会的養護 I	講義	2					2			2											
		社会的養護 II	演習	1					1					1									
	137	保育の心理学	講義	2					2		2												
		子ども家庭支援の心理学	演習	2					2													2	
	139	子どもの保健	講義	2					2		2												
	141	子どもの健康と安全	演習	1					1				1										
		子どもの食と栄養	演習	2					2						2								
	143	子どもの理解と援助	演習	1					1				1										
		子育て支援	演習	1					1													1	
	145	乳児保育 I	講義	2					2		2												
	147	乳児保育 II	演習	1					1				1										
	149	保育所実習 I 指導	演習	1					1				1										
	151	保育所実習 I	実習	2					2				2										
		施設実習 I 指導	演習	1					1													1	
		施設実習 I	実習	2					2													2	
	保育所実習 II 指導	演習	1					1													1		
	保育所実習 II	実習	2					2													2		
	施設実習 II 指導	演習	1					1													1		
	施設実習 II	実習	2					2													2		
最低修得単位数計				22	24	69		50		74	2												
卒業最低修得単位数				必修 22		選択 24		合計 46															
最低修得単位数総計				卒業 62		[小教免 85]		[幼教免 66]		[保育士証 92]													

保育士証はいずれかの実習指導及び実習を選択必修

別表 第1の2 司書教諭養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ 番号	授業科目	授業 形態	履修方法 単位数		開講学期 単位数				備 考
			必修	選択	1前	1後	2前	2後	
	学校経営と学校図書館	講 義	2				2		
	学校図書館メディアの構成	講 義	2				2		
	学習指導と学校図書館	講 義	2					2	
	○読書と豊かな人間性	講 義	2					2	
	情報メディアの活用	講 義	2					2	
	最低修得単位数		10		/	/	/	/	
	最低修得単位数総計	[司書教諭	(小教免+10)		95	]			

# 一般教養科目





科目名	日本語表現の基礎	科目ナンバー	
担当者	藤川 和也		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	漢字や語彙、丁寧な字の書き方、敬語、手紙文のきまりなどの社会生活を送る上で必須の書く力の育成と、縮約、情報の正確な読み取り、レポートのきまりなどの学生生活を送る上で必要となる書く力の育成を目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な語彙力・漢字力を身につける</li> <li>2. 失礼のない形式の整った手紙文を作成できる</li> <li>3. 根拠を明確にした説得力のあるレポートを作成できる</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス 自己紹介文の作成と交流	藤川
第2回	字の丁寧な書き方	藤川
第3回	語彙と文法	藤川
第4回	手紙文（御礼状・案内文）の書き方	藤川
第5回	敬語の基礎（尊敬語・謙譲語・丁寧語）	藤川
第6回	小レポート①（語彙、敬語、手紙文の復習）	藤川
第7回	縮約の作り方	藤川
第8回	履歴書の書き方	藤川
第9回	グラフの種類と特徴	藤川
第10回	図や表を用いた文章理解	藤川
第11回	小レポート②（縮約と資料の分析）	藤川
第12回	プレゼンテーションの基本的知識	藤川
第13回	意見文の分かりやすい文の書き方	藤川
第14回	意見文の吟味と完成	藤川
第15回	総括（最終レポートの作成）	藤川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞、雑誌、ネット記事などで、自分の興味関心に沿う情報を集めておく。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容の振り返りと作成した文章の推敲をする。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課した課題について、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	月曜日 15:00～16:00 研究室（西館405号室）
テキスト	プリントを適宜配布します。
参考文献等	『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原善康 講談社 2009 ￥740 (ISBN-10: 4062880210)
成績評価基準	最終レポートにおいて、根拠を明確にした説得力のあるレポート、失礼のない形式の整った手紙文を作成できること。
成績評価の方法	課題ミニレポート（20%）、小レポート①、②（30%）、最終レポート（50%）
GPA基準	
備考	学内他学科・他専攻開設科目 60名までの受講制限を設けます。

科目名	倫理学	科目ナンバー	
担当者	村若 修		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	「倫理学」とは、人の生き方や人と人との関係のあり方、社会のあり方について、善/悪、正/不正という視点で考えていく学問です。「道徳」ないし「倫理」はすでに皆さんに身につけているものですが、それについて倫理学は反省を加え、吟味する学問だと考えてください。本講義では「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題、主として医療に関する倫理問題について考えていきます。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理的な思考を身につける</li> <li>2. 「生命倫理」の基礎を理解する</li> <li>3. 身近な生命倫理の問題を知り、それについて自分の考えを表現できる</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	倫理学と「生命倫理」	村若
第2回	生命倫理の成立（1）患者の権利	村若
第3回	生命倫理の成立（2）インフォームド・コンセントの歴史	村若
第4回	生命倫理の成立（3）生命倫理の基本原則	村若
第5回	尊厳死（1）日本及び世界の状況	村若
第6回	尊厳死（2）倫理的考察	村若
第7回	安楽死（1）日本及び世界の状況	村若
第8回	安楽死（2）倫理的考察	村若
第9回	人工妊娠中絶	村若
第10回	生殖補助医療技術の利用（1）日本及び世界の状況	村若
第11回	生殖補助医療技術の利用（2）倫理的考察	村若
第12回	出生前診断（1）日本及び世界の状況	村若
第13回	出生前診断（2）倫理的考察	村若
第14回	脳死と臓器移植（1）日本及び世界の状況	村若
第15回	脳死と臓器移植（2）倫理的考察	村若

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	配付資料を事前によく読んでくる			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	映像教材について感想文を課す			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	ミニッツペーパーや課題については、提出した次の授業で要点に触れ、フィードバックする。個別にコメントすることもある。
質問・相談方法	次のいずれかの方法による。(1) 授業時のミニッツペーパーに質問事項を記入する。(2) 授業後に質問をする。(3) オフィスアワーを利用する。
オフィスアワー	火曜日 15:00～17:00 研究室 (西館410号室)

テキスト	適宜資料を配付する。
参考文献等	『現代世界の思想的課題』 中山愈編 弘文堂 1998年 (ISBN4-335-15041-5) 『はじめて出会う生命倫理』 玉井真理子・大谷いづみ編 有斐閣アルマ 2011年 (ISBN978-4-641-12420-2)
成績評価基準	到達目標が十分に達成されること
成績評価の方法	期末試験 (80%)、授業内容に関する小レポート・感想文 (20%)
GPA基準	
備考	

科目名	アメリカの文化	科目ナンバー	
担当者	生田 和也		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	この授業ではディズニーに関するアニメ映画、物語、歴史資料、映画、楽曲などの表現媒体を横断し、「読む」、「見る」、「考える」、「話し合う」という行為を通して、主に人種、階級、ジェンダーといった点からディズニー作品に表象されるアメリカ社会・文化の特徴を批判的に検証する。
授業の到達目標	1. 物語分析を通し、作品の背景に気づき、自身の視野を広げる。 2. ディズニー映画に表象されるアメリカ文化の特徴を批判的に検証できる。

授業計画		担当者
第1回	ディズニー・スタディーズの意義	生田
第2回	『白雪姫』の物語分析と議論	生田
第3回	『シンデレラ』の物語分析と議論	生田
第4回	初期ディズニープリンセスとジェンダー	生田
第5回	『ポカホンタス』の物語分析	生田
第6回	『ポカホンタス』とネイティブ・アメリカン	生田
第7回	『リトル・マーメイド』の物語分析と議論	生田
第8回	『美女と野獣』の物語分析と議論	生田
第9回	中期ディズニープリンセスとジェンダー	生田
第10回	ディズニー映画と人種	生田
第11回	『プリンセスと魔法のキス』の物語分析と議論	生田
第12回	『プリンセスと魔法のキス』と人種・階級	生田
第13回	『アナと雪の女王』の物語分析と議論	生田
第14回	『アナと雪の女王』とアメリカ社会	生田
第15回	21世紀のプリンセスとジェンダー	生田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	ディズニー映画（特にプリンセスもの）に多く言及するため、あらかじめ見ておくと理解が深まる。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業の配布プリントを見直し、それぞれの作品や授業のテーマについて自分自身の考えをまとめておくこと。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	コメントシートへのフィードバックを授業中に適時行う。またオンラインツールを用いてコメントを集め、授業内でフィードバックする。
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。
オフィスアワー	金曜日 14:40～16:10 研究室（西館408号室）
テキスト	授業中に印刷資料を配布する。
参考文献等	『お姫様とジェンダー：アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』 若桑みどり ちくま新書 2003年 760円(税抜き) (I S B N : 978-4-480-06115-7)
成績評価基準	ディズニー作品に見受けられるジェンダー、人種、階級といった社会的・文化的事象を説明できるようになること。
成績評価の方法	小レポート（50%）、定期試験（50%）
GPA基準	
備考	アンケートやコメントシートで受講するみなさんの意見や要望にも応えつつ授業をします。そのため、授業で扱う項目については、授業内で予告の上で若干の変更の可能性もあります、

科目名	絵本論	科目ナンバー	
担当者	藤川 和也		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	絵本には読み手を引き込む様々なしかけがあります。そうした絵本のしかけについて、『絵本のひみつ』や鹿児島メルヘン館の見学などの講義や体験活動を通して理解することを目指します。また、同じ作品で媒体による違い、訳し方による違いなどから絵本作品の楽しさを味わうことを目指します。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絵本の歴史、種類とその特性を理解することができる</li> <li>2. 作品のもつ絵本の特性を分析することができる</li> <li>3. 絵本の特性を生かした作品の紹介文を作成できる</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	ガイダンスお気に入りの絵本を振り返る	藤川
第2回	子どもの絵本の読み方	藤川
第3回	絵本の歴史と種類	藤川
第4回	絵本のひみつ①－まるい大きな正面顔・主人公の立ち位置	藤川
第5回	絵本のひみつ②－色彩	藤川
第6回	絵本のひみつ③－モンタージュ	藤川
第7回	絵本のひみつ④－やなせたかし『それ行け！アンパンマン』の紹介	藤川
第8回	絵本のひみつ⑤－島田ゆか『バムとケロの～』シリーズ作品の紹介	藤川
第9回	絵本のひみつ⑥－加古里子『だるまちゃんと～』シリーズ作品の紹介	藤川
第10回	絵本のひみつ⑦－内田麟太郎『ともだちや』シリーズ作品の紹介	藤川
第11回	『あらしのよるに』木村裕一の作品鑑賞	藤川
第12回	『あらしのよるに』木村裕一の関連作品との比較	藤川
第13回	体験学習(かごしまメルヘン館の見学)	藤川
第14回	体験学習(読み聞かせの方法と実践の紹介)	藤川
第15回	絵本の読み聞かせ	藤川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
					○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	図書館やEテレ「テレビ絵本」(月～金：午前8時50分～午前8時55分)などで日頃から絵本に触れる機会をもつ			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義を参考に関連する絵本を図香館などで探して読むこと 講義を振り返り、感想をまとめる			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課した課題について、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	月曜日 15:00～16:00 研究室（西館405号室）⇒時間割変更により変えることがあります。
テキスト	プリントを適宜配布します。 『絵本のひみつII』 余郷裕次 南日本新聞社 2020 1,000円 (ISBN:978-4-86074-279-9)
参考文献等	『絵本のひみつ』 余郷裕次 徳島新聞社 2010 1,000円 (ISBN:978-4-88606-127-0) 『認定絵本士養成講座テキスト』 絵本専門士委員会 中央法規出版 1,800円 (ISBN:978-4-8058-8225-2)
成績評価基準	作品のもつ絵本の特性を分析した上で、作品の特性を生かした紹介文を作成できること。
成績評価の方法	授業レポート（50%）、体験学習レポート（20%）、最終レポート（30%）
GPA基準	
備考	授業計画13、14の体験学習と振り返りは、日程調整をして土曜日の2～3時間を使い実施します。 （300円程度の費用がかかります。） 80名の受講制限を設けます。 学内他学科・他専攻開設科目



科目名	心理学	科目ナンバー	
担当者	園田 美保		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	心理学の主な領域を網羅する。より深い人間理解のために心理学のキーワードと考え方を紹介する。ここでの人間とは、受講者自身を含み、その点では受講者にとって自己を探る手がかりを提供する。また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとなるよう、受講者が心理学の各領域や方法に触れ、学びながら、考える力も身に付けられるよう、授業を構成する。講義形式だが、受講者には、積極的に自らの日常生活や身近な他者を想定し、内容の理解を行い、自らの考えを表現してもらうため、各回の内容に即したレポートを毎回求める。
授業の到達目標	1. 人間の心理と行動との関係を理解する 2. 自己理解のために心理学の考え方を当てはめ、説明できる 3. 他者理解のために心理学の考え方を当てはめ、理解できる

授業計画		担当者
第1回	「心理学」オリエンテーション 授業の形式、内容と計画、心理学イントロ「心理学とは？」	園田
第2回	心理学の歴史と多様な考え方 心理学の始まり、当初からあって今でも影響力の強い考え方3種	園田
第3回	心理学の研究手法と領域 心理学の方法論と人が人を見るまなざし、心理学の領域いろいろ	園田
第4回	動機づけ 動機づけ説の各種紹介、動機のヒエラルキー、動機づけを高める方法	園田
第5回	情動 情動の発達、情動の種類、情動と表出、表情コントロール、気分障害	園田
第6回	認知 私たちは環境をどのように知なのか？ 感覚、知覚、認知の特性	園田
第7回	学習 人間の行動が作られるしくみとは？ 試行錯誤と洞察、条件づけによる学習	園田
第8回	知能 知能の構造、知能の発達曲線、遺伝か環境か？、創造性を発揮する思考法	園田
第9回	パーソナリティ 特徴の捉え方：類型論と特性論、人格の形成要因、性格の測定法	園田
第10回	適応 人間を環境との関わりで考えてみると？ 不適応反応、ストレス、防衛機制	園田
第11回	社会と人間1 集団とは、集団から個人への影響	園田
第12回	社会と人間2 個人や少数者が集団に与える影響：少数意見が通る時／リーダーシップ論	園田
第13回	臨床の心理学1 心理的問題、心の傷と心の病、5つのレベルの異常反応の症状理解	園田
第14回	臨床の心理学2 心理療法のアプローチ四者四様；精神分析/行動療法/クライアント中心療法/家族療法	園田
第15回	総括・補足、振り返り 「心理学」全体の振り返り	園田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
					○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	指定された方法（Microsoft Formsなど）で授業内容と関連する質問に回答する			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回の授業からキーワードになる言葉や概念を5語程ピックアップし、説明できる程度に理解を深める</li> <li>身近な例を取り上げ、それらを上記のキーワードを使用して説明する</li> <li>今後の日常生活にどのように授業内容を活かせるか、考える</li> </ul>			学習合計時間(h)	45時間

課題に対する フィードバックの 方法	毎回の授業の最初に、前回の小レポートから複数例紹介し、解説を加える。
質問・相談方法	各回の授業後、もしくは小レポートで受け付ける。 授業後やメールで時間調整できた場合も対応可能。
オフィスアワー	水曜日 16:30～17:30 研究室(西館310号室) 金曜以外で事前調整できた日時にも対応可能。
テキスト	特になし。 毎回、資料を配布する。
参考文献等	『心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)』 無藤隆ら (編著) 有斐閣 2018年 4200円 (税抜き) (ISBN-10: 9784641053861) 『誠信 心理学辞典[新版]』 下山晴彦ら (編著) 誠信書房 2014年 5800円 (税抜き) (ISBN-10: 4414305071) 他、各回ごとに配布資料で提示
成績評価基準	心理学の領域ごとに、各回のキーワードと内容を理解し、自分や他者、日常生活と関連させ考えられるものを合格とする。
成績評価の方法	毎回の小レポートと受講態度(70%)と最終レポート(30%)で評価する。
GPA基準	
備考	全学科合わせて80名の受講制限を設ける。(受講登録者が80名を超えた場合は、抽選を行う。) 後期は例年、抽選もなく少人数で開講している。第15回目の授業にはそれまでの配布資料・自筆ノートを全て持参すること。第2回目以降は少なくとも前回の資料は持参すること。

科目名	社会学	科目ナンバー	
担当者	倉重 加代		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	自分の視点から離れて世の中を見ることや想像力を働かせることを意識しながら、日常生活の何気ない行為や社会で起こっている出来事を題材に、日常生活や社会の仕組みを説明する。まず、自分自身のことや自分と直接接する他者との関係を題材に身近な人間関係の間で繰り返される行為を、その後、扱う題材の範囲を広げ社会の大きな変化と個々人の行為の関係について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々の行為や社会で起こっている出来事を、自分から離れて見る視点を身につける</li> <li>2. 自分の関心事と社会で起こっている出来事を結びつける能力を身につける</li> <li>3. 人びとの間に（社会的に）共有される意味や形式の相対性について理解を深める</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	「社会学すること」の視点を理解する	倉重
第2回	人々をつなぐ言葉の特徴を学ぶ	倉重
第3回	行為の意味を学ぶ	倉重
第4回	自分探しについて考える	倉重
第5回	アイデンティティの確立を社会的に捉える	倉重
第6回	主体的に生きることと自由について考える	倉重
第7回	社会と個人の関係について議論し、発表する	倉重
第8回	健康と病気の境界は？—物事の相対性について学ぶ	倉重
第9回	正常と異常を判断する背景について学ぶ	倉重
第10回	社会構築主義の視点を学ぶ	倉重
第11回	水俣病をめぐる社会関係について学ぶ	倉重
第12回	国家の性質について学ぶ	倉重
第13回	国民とは何かについて学ぶ	倉重
第14回	大きな政府と小さな政府について理解する	倉重
第15回	授業のまとめ	倉重

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	新聞を読んだりニュースを見たりして、世の中の出来事に関心を持つ。また、自分が生活してきた地域社会の状況を把握しておく。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	定期試験のために授業内容の復習をしておくこと。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	火曜日16:30~18:30 研究室（西館312号室）
テキスト	『社会学のエッセンス—世の中のおもしろく見ぬく』 友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵著 2017年 2,000円 (ISBN 978-4-641-22098-0)
参考文献等	『自由からの逃走』フロム, E.著 日高六郎訳 東京創元社 1951年 1,870円 (ISBN : 978-4-488-00651-8) 『定本 想像の共同体』ベネディクト・アンダーソン著 白石隆・白石さや訳 書籍工房早山 2007年 2,200円 (978-4-904701-08-9) 総務省統計局ホームページ ほか授業中に紹介
成績評価基準	到達目標の1.~3.は相互に関連し、1.や2.を身につけることにより、3.に掲げている事項の理解を深めることができることから、到達目標の3.「人々の間に共有される意味や形式の相対性」を理解することを成績評価基準とする。
成績評価の方法	期末試験(90%)と毎時間のコメントシート(10%)で評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	日本国憲法	科目ナンバー	
担当者	池田 哲之		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免		

授業の概要	<p>・「統治機構」、「人権」という憲法学の2大領域における須要事項を、日本国憲法を基底に解説してゆく。</p> <p>・日本国憲法の各条項が、わたしたちの日々の暮らしにどのように関わり合っているのかを重要判例をとおし考察する。</p>
授業の到達目標	<p>1. 日本国憲法に関する基本知識を身につけている。</p> <p>2. 立憲主義理念に依拠する現代憲法の意義・役割を日々の生活との関連において説明できる。</p> <p>3. 社会における諸課題解決のための方策を、憲法を軸に構想することができる。</p>

授業計画		担当者
第1回	鷗州憲政史にみる自由権の確立	池田
第2回	人権の諸相－自由権・社会権・参政権・請求権－	池田
第3回	日本国憲法の構造	池田
第4回	立法府（国会）の権能	池田
第5回	行政府（内閣）の権能と内閣総理大臣の権限	池田
第6回	司法府（裁判所）の権能と違憲立法審査制	池田
第7回	中間まとめ	池田
第8回	人権の享有主体	池田
第9回	私人間における憲法効－3つの判例より－	池田
第10回	精神的自由権－表現の自由・信教の自由－	池田
第11回	幸福追求権－憲法13条の可能性－	池田
第12回	経済的自由権とその規制法理	池田
第13回	生存権と生活保護法	池田
第14回	子どもの発達と教育権	池田
第15回	憲法改正の論点	池田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストの授業予定箇所を読み込み、不明部分は資料等を検索し調べておくこと。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中・後に提示された課題研究に取り組むこと。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題にたいする参考答案例の配布または解説をとおり、知識・理解の整理を図る。
質問・相談方法	原則として授業時間の前後またはオフィスアワーに受付ける。
オフィスアワー	原則として 水曜日 16:30～17:30 研究室（研究室414号室）
テキスト	『教職のための憲法』 斎藤一久ほか編著 ミネルヴァ書房 2020年 2000円 (ISBN : 978 - 4 - 623-08935-2)
参考文献等	特になし
成績評価基準	立憲主義と憲法の関係性を踏まえ、日本国憲法の重要条文の内容・意義を理解している。
成績評価の方法	定期試験（90%）、受講意欲・態度等（10%）。なお再試は1回にかぎり実施する。
GPA基準	
備考	上記記載の各内容は、受講生数・受講生の理解度により変更となる場合があります。 学生証不携帯の出席確認未了者は欠席扱いとします。

科目名	歴史学	科目ナンバー	
担当者	松崎 康弘		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	いわゆる「自分たちからは遠い存在の出来事の暗記」ではない、本来の歴史学の在り方を具体的な事例に基づいて学ぶ。民俗学や地理学などとの連携を視野に、柔軟で多角的な歴史の見方を学ぶ。また、現在そして未来の人の生き方や社会の在り方を考えるために歴史研究がどのように生かせるかについても学ぶ。「自分たちの身近に展開した歴史」という視点から、具体的には「地名」「妖怪」「人生儀礼」などのテーマを取り上げる。
授業の到達目標	1. 民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する 2. 過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす 3. 歴史学の成果を参照しながら、社会の在り方を考える

授業計画		担当者
第1回	地名研究と歴史①（地名研究の動向）	松崎
第2回	地名研究と歴史②（鹿児島における地名と歴史）	松崎
第3回	地名研究と歴史③（沖縄等における地名と歴史）	松崎
第4回	歌から読み取る地域の歴史	松崎
第5回	テレビ番組から読み取る地域の歴史	松崎
第6回	妖怪研究と歴史①（研究の視点）	松崎
第7回	妖怪研究と歴史②（映画から読み取る歴史）	松崎
第8回	妖怪研究と歴史③（妖怪から読み取る社会史）	松崎
第9回	妖怪研究と歴史④（妖怪研究とこれからの社会）	松崎
第10回	生活研究と歴史①（死をめぐる文化①：葬儀の文化）	松崎
第11回	生活研究と歴史②（死をめぐる文化②：「メメント・モリ」）	松崎
第12回	生活研究と歴史③（恋愛・結婚をめぐる文化）	松崎
第13回	生活研究と歴史④（伝統芸能）	松崎
第14回	生活研究と歴史⑤（食の歴史）	松崎
第15回	まとめ（自らの生活と結びつく歴史）	松崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	（持っていれば中学校・高校の歴史・日本史教科書を使って）基礎的な日本史の知識を確認しておく。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	定期試験のために復習するとともに、授業で紹介した以外の（自分の居住地域に即した）素材を探す。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	月曜日 14:30~16:20 研究室（西館411号室）
テキスト	特になし
参考文献等	『地名の魅力』 谷川彰英 白水社 2002年 『妖怪文化入門』 小松和彦 せりか書房 2006年 ほか
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容に即して歴史学の方法を理解していること。</li> <li>・授業をもとに自己や社会の在り方を自分なりに考えていること。</li> </ul>
成績評価の方法	定期試験(100%) レポートで代替する場合がある
GPA基準	
備考	



科目名	総合教養Ⅰ	科目ナンバー	
担当者	有松 しづよ (ARIMATSU, Shizuyo)		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	大学生に求められる世界の諸地域に係る基礎的な情報や歴史、日本の歴史の基礎的な教養を身につけるとともに時事についての広い視野と合理的な思考力を養う。就職試験や公務員採用試験、教員採用試験等においても求められる内容も含む。
授業の到達目標	(1) 世界の諸地域の地理・政治経済に関する基礎的な知識を習得している。 (2) 日本を含む近代世界の歴史を理解できている。 (3) 世界の時事に関する基礎情報について理解できている。 (4) 数的処理&判断推理について基礎的な内容を理解できている。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	有松
第2回	世界の諸地域Ⅰ（基礎的な情報）	有松
第3回	世界の諸地域Ⅱ（アングロ&ラテンアメリカ）	有松
第4回	世界の諸地域Ⅲ（ヨーロッパ）	有松
第5回	世界の諸地域Ⅳ（アジア）	有松
第6回	日本の近現代史Ⅰ（開国と明治維新）	有松
第7回	日本の近現代史Ⅱ（明治維新前後の周辺諸国の様相）	有松
第8回	日本の近現代史Ⅲ（日清戦争）	有松
第9回	日本の近現代史Ⅳ（日露戦争）	有松
第10回	日本の近現代史Ⅴ（第一次世界大戦への道）	有松
第11回	日本の近現代史Ⅵ（第一次世界大戦）	有松
第12回	日本の近現代史Ⅶ（第二次世界大戦への道）	有松
第13回	日本の近現代史Ⅷ（第二次世界大戦）	有松
第14回	第二次世界大戦敗戦後における日本の変容	有松
第15回	数的処理&判断推理Ⅰ	有松

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○			○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞やニュース番組を毎日みる。(7.5時間) WORKBOOKに取り組む(22.5時間)	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	既受講内容について復習する。(7.5時間) WORKBOOKに取り組む(22.5時間)	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	授業の終わりに確認テストを実施する。
質問・相談方法	授業の終わりに質疑応答の時間を設ける。
オフィスアワー	

テキスト	『短期大学生のための必修教養WORKBOOK』NO.1～NO.3（大学書籍 2020年）
参考文献等	随時紹介する
成績評価基準	世界の諸地域について基礎的な情報や歴史を理解ができているとともに、日本の近現代史の基礎的な流れを理解している。
成績評価の方法	授業参加度60点 定期試験40点
GPA基準	
備考	

科目名	総合教養Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	有松 しづよ (ARIMATSU, Shizuyo)		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	大学生に求められる日本および世界の政治・経済活動に係る基礎的な教養を身につけるとともに時事についての広い視野と合理的な思考力を養う。就職試験や公務員採用試験、教員採用試験等において求められる基礎教養基礎も含む。
授業の到達目標	(1)日本および世界の政治・経済活動についての基礎的な知識が習得できている。 (2)世界の時事に関する基礎情報について理解できている。 (3)数的処理&判断推理について基礎的な内容を理解できている。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	有松
第2回	数的推理&判断推理Ⅱ	有松
第3回	数的推理&判断推理Ⅲ	有松
第4回	数的推理&判断推理Ⅳ	有松
第5回	数的推理&判断推理Ⅴ	有松
第6回	世界の政治体制	有松
第7回	日本国憲法	有松
第8回	基本的人権	有松
第9回	国会と内閣	有松
第10回	裁判所と司法制度	有松
第11回	地方自治と選挙制度	有松
第12回	資本主義経済の変遷	有松
第13回	経済活動の仕組み	有松
第14回	第二次世界大戦後の日本経済の変遷Ⅰ	有松
第15回	第二次世界大戦後の日本経済の変遷Ⅱ	有松

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○			○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞やニュース番組を毎日みる。(7.5時間) WORKBOOKに取り組む(22.5時間)	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	既受講内容について復習する。(7.5時間) WORKBOOKに取り組む(22.5時間)	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	授業の終わりに確認テストを実施する。
質問・相談方法	授業の終わりに質疑応答の時間を設ける。
オフィスアワー	

テキスト	『短期大学生のための必修教養WORKBOOK』NO.4～NO.5（大学書籍 2020年）
参考文献等	随時紹介する
成績評価基準	日本および世界の政治・経済活動についての基礎的な知識が習得できている。
成績評価の方法	授業参加度60点 定期試験40点
GPA基準	
備考	

科目名	インターンシップ	科目ナンバー	
担当者	石田 もとな		
授業形式	演習	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	<p>本科目の目的は、今後参画して行く「地域社会」を実践的に体験することで、これまで得てきた知識やスキルがどの様に関連しているかを、地元企業での職業体験を通して考える機会を与えることである。事前研修として、研修先企業研究、地域貢献、職業意識・ビジネスマナー研修等の指導を、本学教員と2～3名の学外講師で実施する。講義後、夏季休業中に1～2週間インターンシップを体験。事後研修として報告書の作成に基づき体験発表会を行い職業体験の共有を図る。</p>
授業の到達目標	<p>1. 地元企業体験を短大での学習にフィードバックさせ、以後の学生生活に役立て、社会人としての自覚を持つ</p> <p>2. 職業に関する興味、関心、適性がどこにあるかを自ら考えられる</p>

授業計画		担当者
第1回	ガイダンスーインターンシップとは何か	石田
第2回	研修先地元企業概要・エントリーシート登録方法説明	石田
第3回	エントリーシート・自己PRの書き方	石田
第4回	一次マッチング説明・仕事の基本的心得	石田
第5回	県内雇用環境の説明・働く意義	石田
第6回	研修企業の研修内容説明	石田
第7回	来客対応の基本・二次マッチング参加登録	石田
第8回	職場の人間関係・二次マッチング調整	石田
第9回	職場のマナー研修	石田
第10回	企業のしくみとコンプライアンス	石田
第11回	インターンシップ地元企業の業界研究・地域貢献活動	石田
第12回	外部講師講演（県内企業の現状と課題等）	石田・A
第13回	お礼状の書き方	石田
第14回	インターンシップによる職業体験（1～2週間程度）	石田
第15回	研修日誌・研修報告書等作成・提出	石田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議 グループワーク プレゼンテーション・発表 実習(実験・実技)・フィールドワーク その他の活動 ※ICT教育等を含む	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
担当教員の実務経験と授業の関連	企業における実務経験をマッチングのアドバイス、エントリーシートの書き方、マナー指導等に生かす		
事前学習	関心ある企業について企業研究・調査を行う	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	インターンシップ後、得られた成果を自分の進路決定に活かせるように努める	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	個別業界研究・企業研究など課題を課す場合、口頭もしくは文書でその報告を求めるなど個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 16:30～17:30 研究室（西館404号室） *要事前連絡
テキスト	特になし
参考文献等	1. 講師作成プリント 2. 『インターンシップ-キャリア教育としての就業体験』 古閑博美 学文社 2011年 1,800円 (ISBN978-4-7620-2139-8)
成績評価基準	インターンシップ参加の報告書・プレゼンテーションの内容でシラバスに示す到達目標が達成されたものは合格とする。
成績評価の方法	研修報告書等提出物(70%) 参加報告プレゼンテーション(30%)で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	外部講師：A 理事長 COC関連科目 「一般教養科目『インターンシップ』実施要領」（学生便覧参照）によりインターンシップ参加要件あり

科目名	キャリアガイダンス（一年生）	科目ナンバー	
担当者	宇都 弘美		
授業形式	演習	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	卒必
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報			

授業の概要	キャリアガイダンスの目的は、職業選択を通してあなたらしい生き方を見つけることです。この授業では、自分の過去をふりかえり、今を見つめ、将来を考えることで「自立した自分らしい生活設計」を作り上げられることを目的にしています。1年前期のキャリアガイダンスでは、まず、短大生活を通してキャリアデザイン（自分の未来を描く）ことと、「私」を理解することから始まります。次に職業・職場の理解を深めていきます。
授業の到達目標	自己理解を深め、働くことや職業について理解を深める。目指す職業について理解を深める。

授業計画		担当者
第1回	短大生活2年間の流れを知る	A
第2回	職業理解を深める保育実践に向けた計画を立てる	A
第3回	職業理解と生きがいについて身近な人から学ぶ	A
第4回	自分の立ち位置について考える	A
第5回	具体的な職業イメージをつかむ	A
第6回	具体的な職業イメージを創る	A
第7回	職業理解を深める保育実践をおこなう	A
第8回	生と性について考える	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	目指す進路に向けてネットや新聞などをもとに情報を集めておく			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	自分の目指す進路に関わらせ、講義の内容を振り返る			学習合計時間(h)	15時間

課題に対する フィードバックの 方法	提出された課題に対して、各ホーム担任が適宜対応する
質問・相談方法	オフィスアワーにて対応
オフィスアワー	宇都（責任者） 水・金曜日 12:20～13:10（西館306号室）

テキスト	学科独自に作成した資料 就職支援ガイド（本学作成） キャリア形成ガイドブック（鹿児島市）
参考文献等	特になし
成績評価基準	自己理解を深め、働くことや職業の意義をふまえた上で、目指す職業について理解していること。
成績評価の方法	レポート（100%）
GPA基準	
備考	学科教員（A）：大村・池田・村若・宇都・平嶋・松崎・井上・松元・横峯・内田・宮里・今村・平本・丸田・松下・中村・生田・藤川・渡邊・佐藤・金浦 COC関連科目 担当教員ごとのオフィスアワーを、オリエンテーションで配布



科目名	海外事情	科目ナンバー	
担当者	黒川 太郎、藤川 和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報			

授業の概要	本授業は、異文化体験を通し、国際理解を深め、国際感覚を養おうというものである。事前指導で研修国の文化や歴史、民族性を学習したのち、研修実施国及び時期は追って連絡する。履修学生が所属する学科の特性に見合った研修を行う。
授業の到達目標	1. 異文化に接し、異文化への理解を深める 2. 体験的に国際感覚を養う 3. 自らの専門分野について国際比較の観点から理解を深める

授業計画		担当者
第1回	事前説明 海外研修の流れと実施国の国情（5月・6月）	黒川・藤川
第2回	実施国の文化	黒川・藤川
第3回	実施国の歴史	引率教員
第4回	実施国の言葉	引率教員
第5回	実施国の食生活	引率教員
第6回	実施国の伝統文化	引率教員
第7回	実施国の教育事情	引率教員
第8回	実施国の観光施設訪問	引率教員
第9回	実施国の文化施設訪問	引率教員
第10回	実施国の教育機関訪問	引率教員
第11回	実施国の現地料理実習	引率教員
第12回	実施国の言語学習	引率教員
第13回	実施国の交流	引率教員
第14回	日本軍化の紹介	引率教員
第15回	研修成果の発表	黒川・藤川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○		
担当教員の実務経験と授業の関連	在外公館での勤務経験を活かし、外国でのトラブルを事前指導に盛り込む				
事前学習	インターネットやニュース、書籍を通し、実施国に関する情報を収集し、文化や人に対する関心を深める			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習した内容をまとめ、発表する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	適宜、個人個人に直接コメントしてフィードバックする
質問・相談方法	オフィスアワーに研究室にて対応
オフィスアワー	木曜日 10:50~12:20 研究室(西館307号室)

テキスト	特になし
参考文献等	『地球の歩き方 ガイドブック D10 台湾 2019年~2020年版』 ダイヤモンド社 2019年 1700円(税抜き) (ISBN:978-4-478-82314-9)
成績評価基準	国際交流に関する視野の広がり 国際理解に関する知見
成績評価の方法	研修中の活動(60%) 研修の発表(20%) レポート(20%)
GPA基準	
備考	<p>最小催行人数：6名</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 参加学生数や台湾の情勢により、本授業が開講されない可能性もある</li> <li>2. 本科目に興味を持つ学生は、初回の履修登録時に履修登録をする(後日取消可能)</li> <li>3. 初回の履修登録期間中に登録しない者は、原則として追加登録を認めない</li> <li>4. 説明会2回(5・6月)および中国語講座(7月)、事前説明会(8月)を実施予定</li> <li>5. 参加学生は後日研修成果を発表することが求められる</li> <li>5. 参加にはパスポートが必要であるため、未取得者はパスポートの取得が求められる</li> </ol>

科目名	英語演習Ⅰ	科目ナンバー	
担当者	生田 和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	英語で聞く・話す・読む・書くという基礎的なコミュニケーション能力や、発音・アクセントなど、幼児教育や初等教育でも活用できる英語の基礎的知識を習得する。また英語を学習を通して、異文化への理解を深める。英語の絵本、歌、ゲームなども、適時紹介する。授業内容への理解を深めるために、授業外での課題も課される。
授業の到達目標	1. 英語での基礎的なコミュニケーション能力を習得する。 2. 幼児教育や初等教育で活用できる英語の基礎的知識を習得する。 3. 英語の学習を通して異文化に触れる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション：語学を学ぶに当たって	生田
第2回	"Hello!" and "How are you?": リスニングとコミュニケーション	生田
第3回	"How many?" and "I like blue": リスニングとコミュニケーション	生田
第4回	"What do you like?" and Alphabet (Capital letters): リスニングとコミュニケーション	生田
第5回	"This is for you" and "What's this?": リスニングとコミュニケーション	生田
第6回	"Who are you": リスニングとコミュニケーション	生田
第7回	Introduce Yourself: 自分について発表	生田
第8回	"Hello, world!" and "let's play cards": リスニングとコミュニケーション	生田
第9回	"I like Mondays" and "What time is it?": リスニングとコミュニケーション	生田
第10回	"Do you have a pen?": リスニングとコミュニケーション	生田
第11回	Alphabet (small letters): リスニングとコミュニケーション	生田
第12回	"What do you want?": リスニングとコミュニケーション	生田
第13回	"This is my favorite place": リスニングとコミュニケーション	生田
第14回	"This is my day": リスニングとコミュニケーション	生田
第15回	Introduce your day: 自分の一日について発表	生田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	教員の指示に従い、授業に必要な英語表現や道具を準備する。	学習合計時間(h)	30時間
------	------------------------------	-----------	------

事後学習	授業で学んだ英語表現を、配布プリントを用いて細かく復習する。復習内容について小テストや課題提出を行う。	学習合計時間(h)	30時間
------	---	-----------	------

課題に対する フィードバックの 方法	小テストやコメントシートへのフィードバックを授業内で適時実施する。
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。
オフィスアワー	金曜日 14:40～16:10 研究室（西館408号室）

テキスト	授業中に資料を配布する
参考文献等	
成績評価基準	英語の基礎的なコミュニケーション能力や知識を習得し、異文化について理解すること。
成績評価の方法	小テスト・提出物（50%）、定期試験（50%）
GPA基準	
備考	

科目名	英語演習Ⅰ	科目ナンバー	
担当者	松下 紗耶		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	この授業では、TED Talksを題材にした教科書を用い、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの四技能の修得を目指します。英語のプレゼンテーションを見て、その内容を理解した後で、自分の考えを述べるアクティビティも行います。また、基礎的な文法を学習します。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の文章を読んだりプレゼンテーションを聞いたりして、その意味を理解できる。</li> <li>2. 自分の意見を英語で伝えることができる。</li> <li>3. 基礎的な英文法を理解できる。</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	松下
第2回	Unit 1 Passions	松下
第3回	Unit 1 Passions	松下
第4回	Unit 2 Spending Habits	松下
第5回	Unit 2 Spending Habits	松下
第6回	Unit 3 Career Paths	松下
第7回	Unit 3 Career Paths	松下
第8回	Presentation 1 Introducing someone you know	松下
第9回	Unit 4 Talents	松下
第10回	Unit 4 Talents	松下
第11回	Unit 5 Technology	松下
第12回	Unit 5 Technology	松下
第13回	Unit 6 Challenges	松下
第14回	Unit 6 Challenges	松下
第15回	Presentation 2 Presenting a favorite piece of technology	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、わからない単語等を調べてくる。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習した語彙、文法をもう一度確認する。また、授業内で使用した映像をもう一度見て、聞き取りを行う。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を回収し、クラス全体、もしくは個人に対してフィードバックを行う。
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	金曜日 12:05~12:50 研究室（西館309号室）

テキスト	Keynote, American English Level 1, Student Book with My Keynote Online, David Bohlke, Cengage Learning (ISBN978-1-337-10410-4)
参考文献等	
成績評価基準	学習した語彙、文法を理解し、読解や聞き取りができること。 自分の意見を英語で表現できること。
成績評価の方法	定期試験（50%） 小テスト（20%） 個人・グループ課題（30%）
GPA基準	
備考	

科目名	フランス語演習Ⅰ	科目ナンバー	
担当者	杉山 朱実		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	各課は、「挨拶する」「紹介する」「尋ねる」といった、現実のコミュニケーションの場で体験するテーマに沿った短い会話文が中心となる。これら各課のテーマを表現するのに必要な文法事項も学び、フランス語表現の習得と共に、聞く・書く・読むといった、総合的なフランス語の運用能力を習得していく。
授業の到達目標	1. 現実のコミュニケーションの場で使える生きたフランス語の習得を目指す 2. 一回の授業の中で、毎回受講生が、必ず、フランス語で会話ができることを目標とする 3. アクティブラーニングの実施をめざす

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション：語学を学ぶに当たって -フランスとフランス語に親しむ-	杉山
第2回	フランス語のアルファベットに親しむ	杉山
第3回	フランス語で挨拶をする	杉山
第4回	フランス語で名前を言う	杉山
第5回	フランス語で国籍を言う	杉山
第6回	フランス語で職業を言う	杉山
第7回	フランス語で年齢を言う	杉山
第8回	フランス語で家族を語る	杉山
第9回	フランス語で好きなものを言う	杉山
第10回	フランス語で友達について話す	杉山
第11回	フランス語で持ち物をいう	杉山
第12回	フランス語で尋ねてみる	杉山
第13回	フランス語で近い未来、近い過去を言う	杉山
第14回	フランス語で時間を言う	杉山
第15回	フランス語で天気を言う	杉山

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	小テストでロールプレイ等をして復習する。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合、毎回チェックのうえ返却し、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	月曜日 10:25～10:35、12:05～12:15 講義室（本館308号室）

テキスト	『パリのクール・ジャパン』 藤田裕二 朝日出版社 2018年 2500円 (ISBN: 978-4-255-35211-4)
参考文献等	辞書の説明など、講義の中で説明していく。
成績評価基準	聞く・書く・読むといった運用能力を習得し、フランス語で会話ができること。
成績評価の方法	各講義中の毎回の小テスト（50%）、授業中の平常点（50%）での総合評価
GPA基準	
備考	



科目名	中国語演習Ⅰ	科目ナンバー	
担当者	黒川 太郎		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	中国語初学者対象の授業です。簡単な挨拶表現、基本的な発音および文型を中心に教えます。日常生活に必要な語彙を身に付けることを目的に会話を中心とした授業を行います。毎回の授業では日本語との発音の違いに注意し、正確な発音の練習に時間を割き、授業の終わりには、受講者が中国語で自己紹介できることを目標とします。
授業の到達目標	1. 中国語の発音に慣れ、ローマ字ピンインで書ける。 2. 中国語で自己紹介し、1～10の数を正確に言える。 3. 簡単な挨拶表現ができる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション：語学を学ぶにあたって	黒川
第2回	第1課 挨拶（1）発音（声調・短母音）・ピンイン表記 「こんにちは」	黒川
第3回	第2課 挨拶（2）発音（子音・複合母音・鼻母音） 「お変わりありませんか」	黒川
第4回	第3課 挨拶（3）発音と簡単な挨拶表現 「お仕事は忙しいですか」	黒川
第5回	発音の矯正 自分の名前の中国語音の確認	黒川
第6回	第4課 初めて会う（1）疑問文 「お名前はなんとおっしゃいますか」	黒川
第7回	第5課 初めて会う（2）動詞述語文 「ちょっとご紹介します」	黒川
第8回	第1課～第5課復習（自己紹介）	黒川
第9回	第6課 尋ねる（1）名詞述語文 「誕生日は何月何日ですか」	黒川
第10回	第7課 尋ねる（2）「有」文 「ご家族は何人ですか」	黒川
第11回	第8課 尋ねる（3）時間の読み方 「今何時ですか」	黒川
第12回	発音の矯正 疑問文の作り方	黒川
第13回	第9課 尋ねる（4）連動文 「お住まいはどちらですか」	黒川
第14回	第10課 尋ねる（5）方位詞 「郵便局はどこですか」	黒川
第15回	第6課～第10課復習（数を表す表現）	黒川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	教科書付属のCDを聞き、中国語独特の発音とリズムを習得する。 新出単語の学習をする。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	新出単語の学習をする。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。
質問・相談方法	オフィスアワー内で対応
オフィスアワー	月曜日 13:00~17:00 研究室（西館307号室）

テキスト	『新訳第3版 中国語会話301(上)』 康玉華・来思平 語文研究社 2006年 1300円（税抜き） (ISBN-10: 493131550X)
参考文献等	特になし
成績評価基準	ローマ字ピンインを正確に発音できること。自己紹介・簡単な挨拶表現ができること。
成績評価の方法	定期試験（50%）、受講態度を総合的に評価（30%）、授業内で行う会話試験（20%）
GPA基準	
備考	

科目名	韓国語演習Ⅰ	科目ナンバー	
担当者	李 賢雄		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	韓国語の文字(ハングル)の読み書きを身につけ、簡単な挨拶表現及び基礎文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をする。授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国語の文字(ハングル)と発音を表すことができる。</li> <li>2. 自己紹介や簡単な日常会話ができる。</li> <li>3. 言語を通じて韓国への理解を深めることができる。</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション：語学を学ぶに当たって	李(イ)
第2回	韓国語の文字(ハングル)と発音1(母音)	李(イ)
第3回	韓国語の文字(ハングル)と発音2(子音)	李(イ)
第4回	韓国語の文字(ハングル)と発音3(パッチム)	李(イ)
第5回	日本語のハングル表記方法	李(イ)
第6回	物事の名称についての表現1(文法)	李(イ)
第7回	物事の名称についての表現2(応用)	李(イ)
第8回	出身地について尋ねる1(文法)	李(イ)
第9回	出身地について尋ねる2(応用)	李(イ)
第10回	家族の呼び名及び紹介1(文法)	李(イ)
第11回	家族の呼び名及び紹介2(応用)	李(イ)
第12回	存在の有無を表す1(文法)	李(イ)
第13回	存在の有無を表す2(応用)	李(イ)
第14回	場所を尋ねる表現1(漢数字1/文法)	李(イ)
第15回	場所を尋ねる表現2(漢数字2/応用)	李(イ)

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストを事前に読んでおくこと。 各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておくこと。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	各課ごとに小テストを行うので復習をすること。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 8:40～8:50、10:20～10:30 講義室（本館306号室）

テキスト	『これで話せる韓国語STEP1』 入佐信宏・金孝珍 共著 白帝社 2015年 2,300円(税抜き) (ISBN : 978-4-86398-181-2C3087)
参考文献等	『「あいうえお」から始める書き込み式ハングルBOOK』 栗原景著 成美堂出版 2012年 1,000円(税抜き) (ISBN : 978-4-415-03030-2)
成績評価基準	ハングルの母音と子音を正確に区別でき、決まり文句としての挨拶や簡単な質問ができ、またそういった質問に答えることができたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験（50%）、小テスト（30%）、課題（20%）
GPA基準	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講希望者が5名以下の場合開講されません。</li> <li>・韓国語を初めて学習する人が望ましい。</li> </ul>

科目名	韓国語演習Ⅰ	科目ナンバー	
担当者	姜 美貞		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	韓国語の文字(ハングル)の読み書きを身につけ、簡単な挨拶表現及び基礎文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をする。授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。
授業の到達目標	1. 韓国語の文字(ハングル)と発音を表すことができる。 2. 自己紹介や簡単な日常会話ができる。 3. 言語を通じて韓国への理解を深めることができる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション：語学を学ぶに当たって	姜
第2回	韓国語の文字(ハングル)と発音1(母音)	姜
第3回	韓国語の文字(ハングル)と発音2(子音)	姜
第4回	韓国語の文字(ハングル)と発音3(パッチム)	姜
第5回	日本語のハングル表記方法	姜
第6回	物事の名称についての表現1(文法)	姜
第7回	物事の名称についての表現2(応用)	姜
第8回	出身地について尋ねる1(文法)	姜
第9回	出身地について尋ねる2(応用)	姜
第10回	家族の呼び名及び紹介1(文法)	姜
第11回	家族の呼び名及び紹介2(応用)	姜
第12回	存在の有無を表す1(文法)	姜
第13回	存在の有無を表す2(応用)	姜
第14回	場所を尋ねる表現1(漢数字1/文法)	姜
第15回	場所を尋ねる表現2(漢数字2/応用)	姜

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストを事前に読んでおくこと。 各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておくこと。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	5回おきに小テストを行うので復習をすること。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 8:40～8:50、10:20～10:30 講義室（本館307号室）

テキスト	『これで話せる韓国語STEP1』 入佐信宏・金孝珍 共著 白帝社 2015年 2,300円(税抜き) (ISBN : 978-4-86398-181-2C3087)
参考文献等	『「あいうえお」から始める書き込み式ハングルBOOK』 栗原景著 成美堂出版 2012年 1,000円(税抜き) (ISBN : 978-4-415-03030-2)
成績評価基準	ハングルの母音と子音を正確に区別でき、決まり文句としての挨拶や簡単な質問ができ、またそういった質問に答えることができたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験（50%）、小テスト（30%）、課題（20%）
GPA基準	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講希望者が5名以下の場合開講されません。</li> <li>・韓国語を初めて学習する人が望ましい。</li> </ul>

科目名	日本語演習Ⅰ	科目ナンバー	
担当者	村本 茜		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目 [留学生特別科目]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	この授業では、日本語学校で勉強したN2レベルの日本語の文型をもう一度勉強し、しっかり使えるようにします。そのあと、N1レベルの文型も勉強します。短期大学の授業では、日本語学校で習ったことがない語いもたくさん覚えなければなりません。ですから、語いの勉強もします。また、漢字は書くことより読むことの方が大切ですから、読める漢字の量をふやします。
授業の到達目標	1. JLPTのN1～N2レベルの日本語の文型をおぼえ、使えるようになる 2. 短期大学の授業で使われる語いをおぼえ、理解できるようになる 3. 読める漢字の量をふやす

授業計画		担当者
第1回	テストをして、みなさんの日本語の能力を調べます	村本
第2回	行為の対象 文型：～にこたえて・～をめぐって・～にかかわる 語いと漢字①	村本
第3回	目的・手段・媒介 文型：～上で・～べく・～をもって 語いと漢字②	村本
第4回	起点・終点・限界・範囲 文型：～をはじめ・～からして・～を限りに 語いと漢字③	村本
第5回	時間的同時性・時間的前後関係 文型：～とともに・～と思ったら・～次第 語いと漢字④	村本
第6回	進行・相関関係 文型：～つつある・～ようとしている・～ばかりだ 語いと漢字⑤	村本
第7回	付帯・非付帯 文型：～つつ・～ぬきで・～をぬきにして 語いと漢字⑥	村本
第8回	中間テスト	村本
第9回	限定 文型：～に限り・～かぎり(は)・～かぎりでは・ただ～のみ 語いと漢字⑦	村本
第10回	非限定・付加 文型：～に限らず・～のみならず・～にとどまらず 語いと漢字⑧	村本
第11回	比較・程度・対比 文型：～くらいなら・～にもまして・～ないまでも 語いと漢字⑨	村本
第12回	基準 文型：～に沿って・～に基づいて・～を踏まえて 語いと漢字⑩	村本
第13回	関連・対応 文型：～次第では・～に応じて・～を契機に(して) 語いと漢字⑪	村本
第14回	無関係・無視・例外 文型：～にかかわらず・～はともかく・～いかんによらず 語いと漢字⑫	村本
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	村本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業の前に配ったプリントを見ておいてください			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で教わったことを、その日に家でもう一度勉強してください			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	中間テストなどで確認します
質問・相談方法	何かあれば、授業中や授業の前後に相談・質問してください
オフィスアワー	
テキスト	特になし（プリントを配ります）
参考文献等	『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』 友松悦子ほか 株式会社アルク 2013年 2500円（ISBN：978-4757418905）
成績評価基準	勉強した文型や語いが使えようになったかどうかを評価の基準にします
成績評価の方法	授業態度（20%）、 中間テスト（40%）、 課題レポート（40%）
GPA基準	
備考	受講対象者 留学生のみ



科目名	英語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	生田 和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	英語で聞く・話す・読む・書くという基礎的なコミュニケーション能力や、発音・アクセント・音の変化などの基礎的知識を習得する。また英語学習を通して、異文化への理解を深める。授業内容への理解を深めるために、授業外での予習・復習といった課題も課される。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語での基礎的なコミュニケーション能力を習得する。</li> <li>2. 発音・アクセント・音の変化など英語の基礎的知識を習得する。</li> <li>3. 英語学習を通して異文化に触れる。</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	"Summer Vacations in the World"：リスニングとコミュニケーション	生田
第2回	"Hello, friends"：リスニングとコミュニケーション	生田
第3回	"When is your birthday?"：リスニングとコミュニケーション	生田
第4回	"He can bake bread well."：リスニングとコミュニケーション	生田
第5回	"What would you like?"：リスニングとコミュニケーション	生田
第6回	"Welcome to Japan"：リスニングとコミュニケーション	生田
第7回	"Who is your hero?"：リスニングとコミュニケーション	生田
第8回	"Let's sing songs!"：リスニングとコミュニケーション	生田
第9回	"This is me!"：リスニングとコミュニケーション	生田
第10回	"How is your school life?"：リスニングとコミュニケーション	生田
第11回	"Let's go to Italy"：リスニングとコミュニケーション	生田
第12回	"We all live on the Earth."：リスニングとコミュニケーション	生田
第13回	"Let's think about our food."：リスニングとコミュニケーション	生田
第14回	"My Best Memory"：リスニングとコミュニケーション	生田
第15回	"My Future, My Dream"：リスニングとコミュニケーション	生田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	教員の指示に従い、授業に必要な英語表現や道具を準備する。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で学んだ英語表現を、配布プリントを用いて細かく復習する。復習内容について小テストや課題提出を行う。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	小テストやコメントシートへのフィードバックを授業内で適時実施する。
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。
オフィスアワー	金曜日 14:40～16:10 研究室（西館408号室）

テキスト	授業中に資料を配布する
参考文献等	英語辞書
成績評価基準	英語の基礎的なコミュニケーション能力や知識を習得し、異文化について理解すること。
成績評価の方法	小テスト・提出物（50%）、定期試験（50%）
GPA基準	
備考	アンケートやコメントシートで受講するみなさんの意見や要望にも応えつつ授業をします。そのため、授業で扱う項目については、授業内で予告の上で若干の変更の可能性もあります。

科目名	英語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	松下 紗耶		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	この授業では前期に引き続き、TED Talksを題材にした教科書を用い、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの四技能の修得を目指します。英語のプレゼンテーションを見て、その内容を理解した後で、自分の考えを述べるアクティビティも行います。また、基礎的な文法を学習します。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の文章を読んだりプレゼンテーションを聞いたりして、その意味を理解できる。</li> <li>2. 自分の意見を英語で伝えることができる。</li> <li>3. 基礎的な英文法を理解できる。</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	松下
第2回	Unit 7 Confidence	松下
第3回	Unit 7 Confidence	松下
第4回	Unit 8 Wild Places	松下
第5回	Unit 8 Wild Places	松下
第6回	Unit 9 Achievements	松下
第7回	Unit 9 Achievements	松下
第8回	Presentation 1 Describing an amazing place you visited	松下
第9回	Unit 10 Creative Cities	松下
第10回	Unit 10 Creative Cities	松下
第11回	Unit 11 Picture Perfect	松下
第12回	Unit 11 Picture Perfect	松下
第13回	Unit 12 Healthy Habits	松下
第14回	Unit 12 Healthy Habits	松下
第15回	Presentation 2 Describing an issue or challenge in your community	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、わからない単語等を調べてくる。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習した語彙、文法をもう一度確認する。また、授業内で使用した映像をもう一度見て、聞き取りを行う。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を回収し、クラス全体、もしくは個人に対してフィードバックを行う。
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	金曜日 12:05~12:50 研究室（西館309号室）

テキスト	Keynote, American English Level 1, Student Book with My Keynote Online, David Bohlke, Cengage Learning (ISBN978-1-337-10410-4)
参考文献等	
成績評価基準	学習した語彙、文法を理解し、読解や聞き取りができること。 自分の意見を英語で表現できること。
成績評価の方法	定期試験（50%） 小テスト（20%） 個人・グループ課題（30%）
GPA基準	
備考	

科目名	フランス語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	杉山 朱実		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	文化（フランスの映画や歌）や、フランス人の一日の行動等も含め、より多彩なフランス語表現を学んでいく。文法的に、少し難しく思えても、フランス人が日常会話の中で、使っている表現なので、毎回の授業の中で繰り返すことで、習得していけるので、継続した授業参加を希望する。
授業の到達目標	1. フランス語演習Ⅰに引き続き、現実のコミュニケーションの場で体験するテーマに沿った短い会話文を学んでいく 2. 特にフランス語演習ⅠⅠでは、話すためのきく能力、フランス語を理解できる力を受講生が、習得していくことを目指していく 3. アクティブラーニングの実施を目指す

授業計画		担当者
第1回	フランス人の食事について考察してみる	杉山
第2回	数量表現（フランス語で独特な表現方法を知る）	杉山
第3回	紹介する（フランス語で友達・家族等）	杉山
第4回	一日を語る（フランス語動詞の代名動詞を使う）	杉山
第5回	頼む・命令する（フランス語にある3つの命令法の会話での使い分けを知る）	杉山
第6回	未来のことを語る（前期での近接未来との言い方の違いにより、語尾活用の未来形を知る）	杉山
第7回	過去のことを語るⅠ（過去に完了した行為の表現を複合過去から学ぶ）	杉山
第8回	過去のことを語るⅡ（過去の状態や習慣を半過去の表現から学ぶ）	杉山
第9回	関係代名詞を使った言い方を学び、フランス語表現での会話力を増す	杉山
第10回	強調構文や対立構文を学ぶ（買い物等で、どちらにするか迷った時に使える会話文となる）	杉山
第11回	比較級を学ぶ（買い物や、人物比較等で、使えるフランス語表現の比較級を知る）	杉山
第12回	最上級を学ぶ（フランス語会話表現の中で「もっとも。。。だ。」といった表現を学ぶ）	杉山
第13回	受け身表現・ジェロンディフの表現を学び、フランス語表現の同時性・対立・条件を学ぶ	杉山
第14回	仮定表現を学ぶ（現実に不可能な願望を仮定する表現方法がフランス語にあるのを知る）	杉山
第15回	感情を表現する（感情・願望・義務等のフランス独特の表現方法を学ぶ）	杉山

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	小テストでロールプレイ等をして復習する。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合、毎回チェックのうえ返却し、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	月曜日 14:30~14:40、16:10~16:20 講義室（本館308号室）

テキスト	『パリのクール・ジャパン』 藤田裕二 朝日出版社 2018年 2500円 (ISBN: 978-4-255-35211-4)
参考文献等	辞書の説明など、講義の中で説明していく。
成績評価基準	話すためのきく能力を習得し、フランス語で会話ができること。
成績評価の方法	各講義中の毎回の小テスト（50%）、授業中の平常点（50%）での総合評価
GPA基準	
備考	

科目名	中国語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	黒川 太郎		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	中国語演習Ⅰの履修者が受講する科目です。演習Ⅰと同じの教科書を用い、新しい表現と文法を学び、引き続き正確な発音練習を授業内で行います。また、日常生活や旅行で役立つような簡単な表現を中心に教えると同時に配布資料を通じて新たな語彙の習得を目指します。この授業の終わりには、受講者が中国語母語者を相手に簡単な受け答えができるようになることを目標としています。
授業の到達目標	1. 本文を正確に読むことできる。 2. 基本的な文型を使った表現ができる。 3. 日常会話に必要な単語を覚え、正確に発音できる。

授業計画		担当者
第1回	前期の復習(1課～10課)	黒川
第2回	第11課 必要(1) 語気助詞「了」 「みかんを買いたいです」	黒川
第3回	第12課 必要(2) 主述述語文 「セーターを買いたいです」	黒川
第4回	第13課 必要(3) 能願助詞「会」 「乗り換えが必要です」	黒川
第5回	旅行時の会話表現	黒川
第6回	第14課 必要(4) 兼語文 「両替に行きたいです」	黒川
第7回	第15課 必要(5) 「是」文 「写真を撮りたいです」	黒川
第8回	復習第11課～第15課	黒川
第9回	第16課 約束(1) 動態助詞「?」 「京劇を見たことがありますか」	黒川
第10回	第17課 約束(2) 選択疑問文 「動物園に行きます」	黒川
第11回	買い物での表現、お金の言い方	黒川
第12回	第18課 迎える(1) 文型「要～了」 「道中お疲れさまでした」	黒川
第13回	第19課 迎える(2) 動量補語 「歓迎いたします」	黒川
第14回	第20課 程度補語 「私たちの友情のために乾杯」	黒川
第15回	復習第16課～第20課	黒川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	教科書付属のCDを聞いて声調等の発音を身につける			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	教科書の本文とローマ字ピンインを書き写し、覚える			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。
質問・相談方法	オフィスアワー内で対応。
オフィスアワー	水曜日 10:35~12:05 研究室（西館307号室）

テキスト	『新訳第3版 中国語会話301(上)』 康玉華・来思平 語文研究社 2006年 1300円（税抜き） (ISBN-10: 493131550X)
参考文献等	特になし
成績評価基準	教科書内の文章を正確に読むことできる。基本的な文型を応用した表現ができる。
成績評価の方法	定期試験（50%）、受講態度を総合的に評価（30%）、授業内で行う会話試験（20%）
GPA基準	
備考	



科目名	韓国語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	李 賢雄		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	韓国語演習Ⅰに引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。各課の本文の基本文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をする。授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国語の基礎文法を応用することができる。</li> <li>2. 日常会話のより発展した表現を話すことができる。</li> <li>3. 会話練習を通じてコミュニケーション能力を高めることができる。</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	習慣について尋ねる（動詞編1／文法）	李(イ)
第2回	習慣について尋ねる（動詞編2／応用）	李(イ)
第3回	予定について尋ねる（動詞編3／文法）	李(イ)
第4回	予定について尋ねる（動詞編4／応用）	李(イ)
第5回	時間を表す（固有数字）	李(イ)
第6回	位置を表す（方向）	李(イ)
第7回	過去の行動について表す（動詞の過去形1／文法）	李(イ)
第8回	過去の行動について表す（動詞の過去形2／応用）	李(イ)
第9回	電話番号を尋ねる	李(イ)
第10回	状態や気持ちを表す（形容詞編1）	李(イ)
第11回	相手の気持ちを尋ねる（形容詞編2）	李(イ)
第12回	不規則形容詞と否定形（形容詞編3）	李(イ)
第13回	過去に感じたことについて表現（形容詞の過去形1／文法）	李(イ)
第14回	過去に感じたことについて表現（形容詞の過去形2／応用）	李(イ)
第15回	過去に感じたことについて表現（形容詞の過去形3／練習）	李(イ)

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストを事前に読んでおくこと。・各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておくこと。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	各課ごとに小テストを行うので復習をすること。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 14:30～14:40、16:10～16:20 講義室（本館306号室）

テキスト	『これで話せる韓国語STEP 1』 入佐信宏・金孝珍 共著 白帝社 2015年 2,300円(税抜き) (ISBN : 978-4-86398-181-2C3087)
参考文献等	『改訂版ハングル能力検定試験5級合格をめざして』 李昌烈著 白帝社 2012年 (ISBN : 978-4-89174-812-8)
成績評価基準	自分や家族の名前、物事の特徴や好き嫌いなどの私的な話題、日課や予定、食べ物などの身近なことについて表現することができたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験（50%）、小テスト（30%）、課題（20%）
GPA基準	
備考	「韓国語演習Ⅰ」の単位を修得しておくことが望ましい。

科目名	韓国語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	姜 美貞		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	韓国語演習Ⅰに引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。各課の本文の基本文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をする。授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国語の基礎文法を応用することができる。</li> <li>2. 日常会話のより発展した表現を話すことができる。</li> <li>3. 会話練習を通じてコミュニケーション能力を高めることができる。</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	習慣について尋ねる（動詞編1／文法）	姜
第2回	習慣について尋ねる（動詞編2／応用）	姜
第3回	予定について尋ねる（動詞編3／文法）	姜
第4回	予定について尋ねる（動詞編4／応用）	姜
第5回	時間を表す（固有数字）	姜
第6回	位置を表す（方向）	姜
第7回	過去の行動について表す（動詞の過去形1／文法）	姜
第8回	過去の行動について表す（動詞の過去形2／応用）	姜
第9回	電話番号を尋ねる	姜
第10回	状態や気持ちを表す（形容詞編1）	姜
第11回	相手の気持ちを尋ねる（形容詞編2）	姜
第12回	不規則形容詞と否定形（形容詞編3）	姜
第13回	過去に感じたことについて表現（形容詞の過去形1／文法）	姜
第14回	過去に感じたことについて表現（形容詞の過去形2／応用）	姜
第15回	過去に感じたことについて表現（形容詞の過去形3／練習）	姜

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストを事前に読んでおくこと。・各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておくこと。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	5回おきに小テストを行うので復習をすること。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 14:30～14:40、16:10～16:20 講義室（本館307号室）

テキスト	『これで話せる韓国語STEP 1』 入佐信宏・金孝珍 共著 白帝社 2015年 2,300円(税抜き) (ISBN : 978-4-86398-181-2C3087)
参考文献等	『改訂版ハングル能力検定試験5級合格をめざして』 李昌烈著 白帝社 2012年 (ISBN : 978-4-89174-812-8)
成績評価基準	自分や家族の名前、物事の特徴や好き嫌いなどの私的な話題、日課や予定、食べ物などの身近なことについて表現することができたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験（50%）、小テスト（30%）、課題（20%）
GPA基準	
備考	「韓国語演習Ⅰ」の単位を修得しておくことが望ましい。

科目名	日本語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	村本 茜		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	この授業では、前期の「日本語演習Ⅰ」で勉強した文型よりも、少し難しい文型を勉強します。N1レベルの文型もたくさん勉強します。また、それぞれの学科で必要な語いに分けて勉強します。漢字もさらにたくさん読めるようにします。
授業の到達目標	1. N1～N2レベルの日本語の文型をさらに勉強し、使えるようになる 2. 短期大学の授業で使われる語いをさらにおぼえ、理解できるようになる 3. 読める漢字の量をさらにふやす

授業計画		担当者
第1回	夏休みにしたことについて、発表します	村本
第2回	例示 文型：～といった・～にせよ～にせよ・～であれ～であれ 語いと漢字①	村本
第3回	程度の強調 文型：～てこそ・～までして・～すら・～極まる 語いと漢字②	村本
第4回	話題 文型：～といえば・～といったら・～のこととなると 語いと漢字③	村本
第5回	逆接・譲歩 文型：～つつも・～にもかかわらず・～にせよ・～とはいえ 語いと漢字④	村本
第6回	原因・理由 文型：～ものだから・～ばかりに・～につき 語いと漢字⑤	村本
第7回	仮定条件・確定条件 文型：～ないことには・～ないかぎり・～なくして（は） 語いと漢字⑥	村本
第8回	中間テスト	村本
第9回	逆接仮定条件 文型：～にしても・～にせよ・～であろうと・～ようが～まいが 語いと漢字⑦	村本
第10回	不可能・可能・困難・容易 文型：～がたい・～かねる・～にたえる・～にたえない 語いと漢字⑧	村本
第11回	傾向・状態・様子 文型：～っぽい・～気味・～きらいがある・～まみれ 語いと漢字⑨	村本
第12回	経過・結末 文型：～あげく・～末（に）・～に至って（は） 語いと漢字⑩	村本
第13回	否定・部分否定 文型：～ことなく・～ことなしに・～までもなく 語いと漢字⑪	村本
第14回	伝聞・推量 文型：～ということだ・～とのことだ・～とか 語いと漢字⑫	村本
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	村本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	勉強した表現を、ほかの授業でたくさん使ってください	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で教わったことを、その日に家でもう一度勉強してください	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	中間テストなどで確認します
質問・相談方法	何かあれば、授業中や授業の前後に相談・質問してください
オフィスアワー	
テキスト	特になし（プリントを配ります）
参考文献等	『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』 友松悦子ほか 株式会社アルク 2013年 2500円（ISBN：978-4757418905）
成績評価基準	勉強した文型や語いが使えるようになったかどうかを評価の基準にします
成績評価の方法	授業態度（20%）、 中間テスト（40%）、 課題レポート（40%）
GPA基準	
備考	受講対象者 留学生のみ

科目名	数学基礎	科目ナンバー	
担当者	内田 豊海		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	<p>数学は、昔から様々な文化で多くの人々が創造してきた知の体系です。本講義では、多様な単元を取り扱い、問題解決を通して、「数学すること」の楽しさを実感することを目的としています。また、先人の知に触れることで、文化としての数学を継承するとともに、数学的な考え方のよさも体験し、自ら創意工夫し、問題解決を試みようという態度を培っていきます。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学的活動の楽しさを知り、問題解決をしようとする態度を培う</li> <li>2. 数学の有用性を認識する</li> <li>3. 習得した技能を日常に応用することができる</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	数の歴史 いろいろな文化にある様々な数学	内田
第2回	不思議な数のパターン	内田
第3回	微分と積分 イメージすると計算できる	内田
第4回	迷路 出口を見つけるためにはどうしたらいいだろう	内田
第5回	グラフを読む 鹿児島の人人口変動を探ろう	内田
第6回	数値を読み解く オリンピック選手を選んでみよう	内田
第7回	タングラム 図形を組み合わせてみると	内田
第8回	面積 一つの知識でどれだけのが考えられるか	内田
第9回	確率 好きな人の隣に座れる確率は	内田
第10回	フィボナッチ数 美しいデザインの中にある秘密	内田
第11回	価値観 数を選ぶことで、自分の価値を知る	内田
第12回	関数 変化する先の予測	内田
第13回	証明 どうしたら人に説明できるだろう	内田
第14回	ベクトル 力を図示するとわかること	内田
第15回	不完全性定理 数学はどこまで正しいのだろうか	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○
担当教員の実務経験 と授業の関連					
事前学習	単元に関する高校までの既習事項を確認する			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容に即した発展的問題を課題として提示する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	提出された課題の添削および返却
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:00 研究室（西館412号室）
テキスト	特になし
参考文献等	『偏愛的数学 驚異の数』 ポザマンティエ著 岩波書店 2200円 (ISBN : 978-4000059817)
成績評価基準	各単元の数学的知識の理解および問題解決力の有無
成績評価の方法	定期試験 (70%) 授業態度 (30%)
GPA基準	
備考	



科目名	理科基礎	科目ナンバー	
担当者	内田 豊海		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	身近なものや出来事でも、よく考えてみると、不思議なことばかり。この授業では、様々な「なぜ？」から出発して、その？を解き明かすことで、科学の楽しさを実感するとともに、科学的な考え方も身につけていくことを目標としています。取り扱う内容は、広い科学の分野から、できるだけ多くの単元を選出しており、結果として、たくさんの方に興味・関心をもち、最終的には、自分で科学についてももっと知りたい、考えたいと思えるような授業構成にしています。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理科・科学の楽しさを実感する</li> <li>2. 様々なものごとに、興味関心をもつ視点を養う</li> <li>3. 疑問や問題に、自分なりの考えをもてる科学的思考力を習得する</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	ロウソクの観察を通し、科学的な考え方を知ろう	内田
第2回	五感で感じられることは何？ 視覚・聴覚・触覚	内田
第3回	五感で感じられることは何？ 嗅覚・味覚	内田
第4回	最先端の科学事情 今科学でできること	内田
第5回	宇宙の誕生と今、そして未来	内田
第6回	星座物語と地球誕生	内田
第7回	生物 その進化と多様性	内田
第8回	遺伝するもの、しないもの	内田
第9回	病気がってなんだろう？	内田
第10回	燃えるもの、燃えないもの	内田
第11回	化学反応式はすごい こんなことまで説明できる	内田
第12回	電化製品はどんな仕組み？ イヤホンを作ってみよう	内田
第13回	炎色反応 金属を使って花火を作ろう	内田
第14回	時間の流れは同じではない？ 相対性理論と量子力学	内田
第15回	科学的ってなんだろう？ 科学と疑似科学	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○
担当教員の実務経験 と授業の関連					
事前学習	日常で不思議に思ったことをメモし、自分なりにその答えを考えるとともに、授業の前後で教員と話をしながら、その背景を探る			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習した内容を現実世界と即しながら再確認する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	講義において教室全体に対してのコメントとしてフィードバックしていく
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:00 研究室（西館412号室）
テキスト	特になし 授業中に適宜資料を配布する
参考文献等	科学雑誌『ニュートン』
成績評価基準	基礎的な知識だけでなく、科学的思考力の定着度合い、さらに理科への興味関心の具合を基準とする
成績評価の方法	定期試験（70%） 授業態度（30%）
GPA基準	
備考	

科目名	分子からみた生物	科目ナンバー	
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	生物とは何か、このことについて一般常識としての生物と、最近の生物に関する知見について学び、自分のこととして考えられる教養を身につける。
授業の到達目標	1. 生物について基礎的な知識を習得する 2. 最近の生物における知見を学ぶ

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	横峯
第2回	生物と細胞	横峯
第3回	生物の体を作っているもの（異化）	横峯
第4回	生物の体を作っているもの（同化）	横峯
第5回	細胞の増え方、精子と卵のでき方	横峯
第6回	メンデルの遺伝（優性の法則、分離の法則について）	横峯
第7回	血液型で遺伝を知ろう	横峯
第8回	男の子、女の子の生まれる確率（伴性遺伝）	横峯
第9回	遺伝疾患の分類	横峯
第10回	クローン動物	横峯
第11回	臓器移植	横峯
第12回	生物の進化と地球環境①（生命の誕生）	横峯
第13回	生物の進化と地球環境②（全球凍結と生命）	横峯
第14回	生命の進化と地球環境③（大海からの離脱）	横峯
第15回	生物の進化と地球環境④（大量絶滅）	横峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	小・中の頃に勉強した関連の内容について復習しておく	学習合計時間(h)	30時間
------	---------------------------	-----------	------

事後学習	自ら作成した板書ノートを読み直し、次の講義へ備える	学習合計時間(h)	30時間
------	---------------------------	-----------	------

課題に対する フィードバックの 方法	課題に対しては求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する
オフィスアワー	月曜日 16:30~18:00 研究室（西館401号室）
テキスト	特になし
参考文献等	『休みの時間の生物学』 朝倉幹晴 講談社サイエンティフィック 2376円 (ISBN: 978-4061557017)
成績評価基準	本講義内において紹介・説明した生物学の一般常識を理解し、自分の言葉で説明できること
成績評価の方法	定期試験 (100%)
GPA基準	
備考	

科目名	人間と環境	科目ナンバー	
担当者	岩切 朋彦		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	人間は、地球上のあらゆる場所にいます。長い歴史の中で、様々な自然環境に適応してきたのが人間です。その適応は、牙を伸ばしたり毛を増やしたりといった身体的変化ではなく、自然環境に合わせて独自の社会環境・技術環境・精神的環境を生み出すことによって行われてきました。人類学の一領域である環境人類学は、人間と環境とのこうしたかわりについて、多角的な視点から研究を行ってきた学問です。この講義では、環境人類学の基本的な理論を通して、人間と環境の様々な相互関係について概説していきます。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境人類学の基本的な理論について学び、理解する</li> <li>2. 人間と環境の複雑な相互関係について学び、理解する</li> <li>3. 自分の日常的な環境について、学んだ理論を用いて説明することができる</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	文化人類学と環境人類学に居ついて—イントロダクションとして	岩切
第2回	人間は「文化」によって環境に適応する—人間と環境との生態学的関係	岩切
第3回	飢えないために人間が編み出してきたこと—環境と生業経済	岩切
第4回	住居も「道具」のひとつである—諸民族の住居と自然環境への適応	岩切
第5回	人間は「進化」しているのか—文化生態学と多系進化論	岩切
第6回	環境は言語によって創造される—民族生態学とタクソノミー研究	岩切
第7回	シンボルによって織りなされた豊かな環境観—構造主義と「野生の思考」	岩切
第8回	宗教は生態系に影響を与える—ホメオスタシスとしての儀礼	岩切
第9回	文化によってモノはさまざまな意味をおびる—モノの意味と交換	岩切
第10回	国家もまた「環境」のひとつである—複合社会の生態学	岩切
第11回	金属は役には立つが悩みも多い—鉱物開発に伴う種々の問題	岩切
第12回	「3.11」以降の日本と原子力発電—ハザードとリスク	岩切
第13回	「人口爆発」と環境破壊—地球人口の増加と環境への影響	岩切
第14回	環境破壊によって生み出される新たな病—環境と健康	岩切
第15回	グローバル化時代における人間と環境—まとめとして	岩切

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テレビや新聞、インターネットなどで、環境問題についてのニュースがないかチェックしておくこと。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	その日の授業で学んだ内容について、自分の生活環境と関連付けながら考え、復習すること。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	感想シートによる理解度チェックを行う
質問・相談方法	授業中の質問、研究室（西館407）での対応
オフィスアワー	金曜日 10:50~12:20 研究室（西館407号室）
テキスト	特になし（プリント配布）
参考文献等	『環境人類学を学ぶ人のために』パトリシア・K・タウンゼンド著 世界思想社 2004年 1870円 （税込）（ISBN-13: 978-4790710363） 『最新研究で読む地球環境と人類史』石弘之著 洋泉社 2016年 2420円（税込）（ISBN-13: 978-4800310002）
成績評価基準	①理論の理解度 ②人間と環境を巡る問題に対して自らの意見を言えるかどうか ③受講態度
成績評価の方法	定期試験（80%） 受講態度（20%）
GPA基準	
備考	

# 專門科目





科目名	音楽	科目ナンバー	J小1106
担当者	佐藤 慶治、中村 礼香		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	クラスを前半と後半に分け、各45分で以下の演習を行わせる。「ピアノ弾き歌い技術および基礎的音楽理論の演習」(45分) ①グループ2名が歌唱援助者と伴奏者を分担する。②歌唱指導等の総合的な音楽援助について演習する。③歌唱指導等の演奏に必要な知識や理論について演習する。「ピアノレッスンを通して、ピアノ奏法の基礎的能力を演習する」(45分) ①各自の演奏レベルに応じたピアノ曲の個人レッスンを演習する。②ピアノ課題曲等を弾き歌いする能力を習得する。
授業の到達目標	1. 小学校音楽科教育に必要な歌唱援助および歌唱指導ができる 2. 基礎的音楽理論、ピアノ演奏技術を演習し理解することができる 3. 教育者としての基礎的な音楽に関する教育技能を高めることができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 音楽理論(譜表、幹音名ほか) ピアノ(クラス分け)	A・B
第2回	音楽理論(派生音名、変化記号ほか) ピアノ テキストP29 1・2・3・4・5 (B3・4・5・6・7)	A・B
第3回	音楽理論(音符、休符等の音楽記号) ピアノ テキストP30 6・7番(B44・11) こいぬのマーチ	A・B
第4回	音楽理論(拍子記号、小節等の音楽記号) ピアノ テキストP30・31 8・9番(B19・16) 手をたたきましょう	A・B
第5回	幼児に対する音楽的指導(幼稚園指導要領および小学校学習指導要領音楽科のねらい) ピアノ テキストP31 10番(B29)	A・B
第6回	音楽理論(幹音の音程) ピアノ テキストP34 15番(B48) きらきら星	A・B
第7回	音楽理論(派生音の音程) ピアノ テキストP35 16番(B59)	A・B
第8回	幼児および児童に対する音楽的援助(音楽的な表現) ピアノ テキストP36 17番(B66)	A・B
第9回	音楽理論(長音階の構造と作成) ピアノ ハ長調スケール(テキストP40) お弁当(コード伴奏・うたとあそび伴奏)	A・B
第10回	音楽理論(長音階の構造と作成2) ピアノ ト長調スケール(テキストP45) うみ(テキストP55、コード伴奏)	A・B
第11回	幼児および児童に対する音楽的援助(幼児および児童の音楽的能力の発達) ピアノ さよならのうた	A・B
第12回	音楽理論(関係調) ピアノ テキストP47 34番(B78)	A・B
第13回	音楽理論(関係調2) ピアノ おかえりのうた	A・B
第14回	音楽理論(総合的知識のまとめ) ピアノ 実習曲	A・B
第15回	総合的演習(保育、教育に必要な基礎的音楽知識のまとめ) ピアノ 試験曲および未履修曲	A・B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	
担当教員の実務経験 と授業の関連					
事前学習	ピアノ曲等の事前練習			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	ピアノ曲等の練習、発表事項の確認			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	定期試験や歌唱指導等の課題について、個別に対応する。
質問・相談方法	オフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	佐藤：水曜日 13:10～14:40 研究室（本館603号室） 中村：水曜日 10:50～12:20 研究室（本館601号室）
テキスト	『うたとあそび』 鹿児島私立幼稚園協会編 共同音楽出版 2019 価格2000円（税抜き）（ISBN：978-4-7785-0416-8） 『ピアノテキスト』 全国大学音楽教育学会九州地区学会 2014 価格2400円（税抜き）（ISBN：978-4-7609-0338-2） 『ピアノ教則本』（バイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバム等、各自のレベルに応じて）
参考文献等	特になし
成績評価基準	以下の事柄について達成できたものは合格とする。 ・課題曲の歌唱演習が適切に実施できたもの ・基礎的音楽理論を理解し、期末試験に合格したもの ・ピアノ課題幼児曲が個人レッスンで合格し、期末実技試験で適切に演奏できたもの
成績評価の方法	音楽理論筆記試験（45%）、ピアノ実技試験（45%）、平常点（10%）：受講態度、ピアノ進度
GPA基準	
備考	A：佐藤 B：ピアノ指導（中村、有満、窪田、高取、武田、蜷川、古川、村原） 単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	図画工作	科目ナンバー	J小1107
担当者	井上 周一郎、松下 茉莉香		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	小学校図画工作科の内容を中心に、その意義と指導法について講義する。幅広い課題製作に取り組むことで、造形表現の豊かさを実感できるよう促し、手を通して思考することの大切さを伝える。また、感性や創造性を育むための授業づくり（教材研究・活動設定・導入など）について解説し、現場での実践力を高める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「造形遊び」「絵や立体・工作に表す」の知識や技能を習得できる</li> <li>2. 製作実習を通して、造形表現の豊かさを味わい、手を通して思考することの大切さを理解できる</li> <li>3. 感性や創造性を育むための適切な授業づくりについて説明できる</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション（授業の内容、美術館での鑑賞学習について）	A・B
第2回	美術という言葉について	A
第3回	幼児期の造形教育について	A
第4回	「もの」「こと」「ば」との出会いを楽しむ～グループワークで感性を育む～	A
第5回	感触遊びと造形遊びについて	A
第6回	児童期の造形教育について	A
第7回	材料や技法との出会いを楽しむⅠ～折紙で切り紙の製作～	A
第8回	材料や技法との出会いを楽しむⅡ～切り紙で発想力を養う～	A
第9回	材料や技法との出会いを楽しむⅢ～切り紙で画面構成や天井飾り作り～	A
第10回	材料や技法との出会いを楽しむⅣ～ダンボールで造形遊び～	A
第11回	創造性を育むⅠ～粘土による製作実習で心棒づくり～	A
第12回	創造性を育むⅡ～粘土による製作実習で荒付け～	A
第13回	創造性を育むⅢ～粘土による製作実習で仕上げ～	A
第14回	児童期の造形活動と発達について	A
第15回	感性や創造性を育む授業づくりの在り方	A

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	意味のわからない用語は辞書などで調べておくこと	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	課題製作や課外学習のレポートに取り組み、造形表現の豊かさを味わうこと	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題製作やレポートに関しては、求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する
オフィスアワー	井上：金曜日 16:30～18:00 研究室（本館609号室） 松下：月曜日 16:30～18:00 研究室（本館602号室）
テキスト	『小学校 図画工作科教育法』 編著 山口喜雄 建帛社 2018年 2400円（税抜き）（ISBN：978-4-7679-2113-6）
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること
成績評価の方法	授業への参加態度（20%）、作品評価（30%）、鑑賞学習のレポート（10%）、定期試験（40%）で総合的に評価する
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目 A：井上 B: 松下

科目名	国語科指導法	科目ナンバー	J小1222
担当者	藤川 和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	学習指導要領に示された国語科の目標や内容を、実践事例の検討や教材研究を通して理解するとともに、指導上の留意点、評価の方法を学ぶ。また、学習指導案の作成及び模擬授業を通して実践力を高める。さらに、国語科を核とした様々な連携について学ぶ。
授業の到達目標	国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容の背景となる学問領域と関連させて理解を深めると共に、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業計画		担当者
第1回	ガイダンスー 小学校国語科授業の振り返りからみる国語科の目標	藤川
第2回	C「読むこと」(文学的文章)の実践事例からみる目標・内容・指導上の留意点	藤川
第3回	C「読むこと」(説明的文章)の実践事例からみる目標・内容・指導上の留意点	藤川
第4回	A「話すこと・聞くこと」の実践事例からみる目標・内容・指導上の留意点	藤川
第5回	B「書くこと」の実践事例からみる目標・内容・指導上の留意点	藤川
第6回	[知識及び技能]の実践事例からみる目標・内容・指導上の留意点	藤川
第7回	国語科の背景となる言語学・文学・認知心理学等の知見を活かした教材分析	藤川
第8回	模擬授業に向けた国語科学習指導案の構成の理解	藤川
第9回	模擬授業に向けた子どもの認識・思考の活性化を促す情報機器・教材の工夫	藤川
第10回	情報機器・教材を活用した国語科における学習評価の工夫	藤川
第11回	模擬授業①と振り返り(子どもの学力がみえる評価方法に向けての検討)	藤川
第12回	模擬授業②と振り返り(子どもの認識・思考を活かす教具・板書に向けての検討)	藤川
第13回	模擬授業③と振り返り(主体的・対話的で深い学びに向けての検討)	藤川
第14回	小学校入門期の国語科授業(保・幼・小連携の視点)	藤川
第15回	目指す国語科授業の構想(国語科の本質を考える)	藤川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・ことばドリル、お伝と伝じろう、わかる国語 読み書きのツボ(NHK for school)などの国語科教育に関連する番組を視聴する。 ・小学校で使用されている国語教科書を図書館で借り、どのような教材があるのか読む。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容の振り返りと感想をまとめる	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合（定期試験を含む）、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	月曜日 15:00～16:00 研究室（西館405号室）
テキスト	『小学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説 国語編』 文部科学省 東洋館出版社 2018 162円（ISBN-10: 4491034621）
参考文献等	『国語教育指導用語辞典（第五版）』 田近洵一・井上尚美・中村和宏編 教育出版 2018 4,000 円（ISBN-10: 4316804618） 『あらゆる教材を「図解」する！小学校国語科教材研究シートの活用』 「ことばの学び」を開く 会・香月正登 東洋館出版社 2013 1,900円（ISBN-10: 4491029563）
成績評価基準	学習指導要領における国語科の内容を踏まえ、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を 身に付けること。
成績評価の方法	最終レポート（70%・・・模擬授業の振り返り（30%）+改訂版指導案（40%）） 模擬授業の発表内容（15%）、毎時間ごとの授業感想ミニレポート（15%）
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	社会科指導法	科目ナンバー	J小1123
担当者	松崎 康弘		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	前半は学習指導要領の読み込みや実践事例の分析を通して、社会科の目標・内容・評価等について理解を深める。後半は模擬授業の作成・実施・討論・振り返りをとおして、社会科の実践力を高める。
授業の到達目標	1. 社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解している。 2. 学習指導要領に示された社会科の学習内容について理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けている。

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション（本授業の目的説明、学生の社会科教育体験の振り返り）	松崎
第2回	中学年（主に第3学年）の目標及び内容と指導上の留意点	松崎
第3回	中学年（主に第4学年）の目標及び内容と指導上の留意点	松崎
第4回	第5学年の目標及び内容と指導上の留意点	松崎
第5回	第6学年の目標及び内容と指導上の留意点	松崎
第6回	社会科の学習評価の考え方	松崎
第7回	背景となる社会諸科学を踏まえた教材研究の在り方	松崎
第8回	子どもや学校、地域の実態を視野に入れた授業設計	松崎
第9回	社会科における情報機器及び教材の効果的な活用	松崎
第10回	模擬授業テーマに向けた授業設計及び学習指導案の作成	松崎
第11回	中学年（主に第3学年）の内容の模擬授業の実施と振り返り	松崎
第12回	中学年（主に第4学年）の内容の模擬授業の実施と振り返り	松崎
第13回	第5学年の内容の模擬授業の実施と振り返り	松崎
第14回	第6学年の内容の模擬授業の実施と振り返り	松崎
第15回	小学校社会科教育の全体目標を踏まえた総括	松崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	指導要領解説にあらかじめ目を通しておく。模擬授業についてグループのメンバーと協議しながら準備する。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	模擬授業に向けて授業前半部分の復習をする。模擬授業についての自己評価を行う。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	模擬授業については松崎より指導助言を行う。 その他、課題を課した場合は求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	月曜日 14:30~16:20 研究室（西館411号室）
テキスト	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』 文部科学省 日本文教出版 2018年 142円（税抜き） （ISBN：978-4-536-59009-9）
参考文献等	『MINERVAはじめて学ぶ教科教育3 初等社会科教育』 井田仁康・唐木清志編著 ミネルヴァ書 房 2018年 ほか
成績評価基準	・社会科の基本的な目的や内容を理解すること。 ・社会科の授業を設計・実行する基本的な能力を有すること。
成績評価の方法	定期試験（80%） 模擬授業（20%）
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目、他学科開放科目



科目名	算数科指導法	科目ナンバー	J小1124
担当者	内田 豊海		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	算数科教育の目標を、通時的に俯瞰するとともに、学習指導要領における学習内容を把握し、その上で学習指導における実践的な力を養うべく、理論と実践を結びつけながら、授業実践や評価の方法を学ぶ。
授業の到達目標	算数科における教育目標、児童が獲得すべき資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について、その背景にある数学の学問性や文化性と関連付けながら理解を深め、様々な教材観や教育方法観を踏まえて授業場面を見据えた授業設計を行う力量を育成する。

授業計画		担当者
第1回	算数科教育の目標と学習内容の系統性	内田
第2回	学習指導要領の変遷とその要因	内田
第3回	算数科教育の学習内容と数学的背景1－数と計算	内田
第4回	算数科教育の学習内容と数学的背景2－図形	内田
第5回	算数科教育の学習内容と数学的背景3－測定および変化と関係	内田
第6回	算数科教育の学習内容と数学的背景4－データの活用	内田
第7回	算数科学習指導の基礎1－様々な教育観と学習理論	内田
第8回	算数科学習指導の基礎2－各領域における算数的活動	内田
第9回	算数科学習指導の基礎3－教材開発と授業の工夫	内田
第10回	算数科学習指導の基礎4－評価の観点と評価法	内田
第11回	算数科授業実践1－指導案の構造と作製法	内田
第12回	算数科授業実践2－模擬授業とその検討	内田
第13回	算数科授業実践3－ICTを活用した授業実践例	内田
第14回	算数科授業開発－21世紀型能力を踏まえた数学的活動の発展性	内田
第15回	算数科と他教科、他校種との連続性と可能性	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	対象単元の指導要領を予め精読する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習単元の指導案を具体的に作る	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題レポートにコメントを記入し返却する。また授業中にクラス全内に対するコメントをする
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる
オフィスアワー	月曜日 13:00~16:00 研究室（西館412号室）

テキスト	『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省 2017年 242円 (ISBN : 978-4536590102) 文部科学省
参考文献等	『小学校教師のための算数と数学15講』 溝口達也編 ミネルヴァ書房 2019年 2376円 (ISBN : 978-4624084289)
成績評価基準	算数科教育に関して、単元の知識理解度合い、教授の方法修得状況、そして模擬授業の実践力、評価の方法の理解の4点に関して評価する
成績評価の方法	定期試験（60%）、模擬授業の発表内容（20%）、小レポート（20%）
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	音楽科指導法	科目ナンバー	J小1227
担当者	佐藤 慶治		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	<p>小学校音楽科授業に関する演習内容の実施によって、授業運営に必要な能力を学生に習得させる。①小学校音楽科における教材、指導案、学習指導要領、音楽理論、伴奏法を研究させる。②指導法の研究に基づく模擬授業を実施させ、授業研究を行わせる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校における音楽教育活動に必要な基礎的授業運営することができる</li> <li>2. 児童の音楽を愛好する心情と感性を育てることができる</li> <li>3. 音楽活動に必要な基礎的能力を身に付けることができる</li> <li>4. 音楽授業の設計について研究し実践できる</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	小学校学習指導要領研究1（ねらいと目的、子どもの音楽的発達）	佐藤
第2回	学習指導案研究及び作成演習（指導計画の作成と領域、評価の観点・題材による主題作成）	佐藤
第3回	音楽科授業の指導ポイント（情報機器等を活用した学習活動過程の展開、アクティブラーニング）	佐藤
第4回	歌唱活動、器楽活動授業の展開について	佐藤
第5回	身体表現活動、創作活動授業について	佐藤
第6回	1・2学年の教材の取り扱い方（共通教材、身体表現、器楽活動、歌唱活動）	佐藤
第7回	3・4学年の教材の取り扱い方（共通教材、身体表現、器楽活動、歌唱活動）	佐藤
第8回	5・6学年の教材の取り扱い方（共通教材、身体表現、器楽活動、歌唱活動）	佐藤
第9回	模擬授業・音楽授業指導研究（1・2学年の教材）	佐藤
第10回	模擬授業・音楽授業指導研究（3・4学年の教材）	佐藤
第11回	模擬授業・音楽授業指導研究（5学年の教材）	佐藤
第12回	模擬授業・音楽授業指導研究（6学年の教材）	佐藤
第13回	コードネームによる簡易伴奏法演習①「うみ」「虫のこえ」「春の小川」	佐藤
第14回	コードネームによる簡易伴奏法演習②「とんび」「こいのぼり」「ふるさと」	佐藤
第15回	総合的演習（共通教材指導上の留意点）	佐藤

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	学習指導案作成および教材研究、授業法の研究等	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習指導案作成および教材研究、授業法の研究等	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	小学校音楽科学習指導案作成等について、求めに応じて個別に指導する。
質問・相談方法	オフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	水曜日 14:50~16:20 研究室（本館603号室）
テキスト	『ピアノテキスト』 全国大学音楽教育学会九州地区学会 2014 価格2400円（税抜き）（ISBN：978-4-7609-0338-2） 『小学校音楽』教科書1～6年生 教育芸術社 2019 価格1200円（税抜き）（ISBN：978-4-87788-592-2） 『教員養成課程 小学校音楽科教育法』 教育芸術社 2019 価格1800円（税抜き）（ISBN：978-4-8788-823-7）
参考文献等	小学校学習指導要領解説音楽編（平成29年6月文部科学省）
成績評価基準	以下の事柄について適切に達成したものを合格とする。・学習指導案に基づいた基礎的授業運営ができる・音楽活動に必要な音楽能力が身についたもの・期末試験において小学校音楽科教育法を理解し合格したもの
成績評価の方法	定期試験90分(60%)、授業課題等（40%）定期試験および授業課題
GPA基準	
備考	・単位互換 [KRICE] 提供科目 ・小学校音楽科共通教材について弾き歌いができることが望ましい

科目名	図画工作科指導法	科目ナンバー	J小1228
担当者	井上 周一郎、松下 茉莉香		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	小学校図画工作科の表現領域に関する課題製作に取り組み、基礎造形に関する知識や技能の習得を図る。また、新たな学習指導要領や具体的な授業実践例について解説し、目標・内容・指導上の要点と工夫・評価の観点と方法の理解を促す。模擬授業では、教材研究・授業研究・学習指導案作成の方法を検討し、“深い学び”を実現する授業の在り方を明らかにする。
授業の到達目標	1. 図画工作科の教育目標や学習内容を理解し、育成すべき資質・能力を説明できる 2. 様々な製作実習を通して、基礎造形の知識や技能を習得する 3. 模擬授業を通して“深い学び”を実践的に考察することで、適切な授業づくりと指導法を理解する

授業計画		担当者
第1回	図画工作科の目標と内容(表現・鑑賞・共通事項)について	A
第2回	「絵に表す」に関する造形的な見方、考え方を学ぶ	A
第3回	製作実習を通して「絵の描き方」を学ぶ	A
第4回	図画工作の指導案作成のポイントを学ぶ	A
第5回	模擬授業に関する教材研究・授業研究・学習指導案作成について	A
第6回	「立体に表す」「工作に表す」の製作実習	A
第7回	「立体に表す」「工作に表す」に関する模擬授業とグループワーク	A
第8回	模擬授業と主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり(ICTの活用を含む)について	A
第9回	視聴覚教材からみる児童期の描画表現の特徴と発達について	B
第10回	「絵に表す」「版に表す」学習の内容と指導上の留意点について	B
第11回	「絵に表す」「版に表す」学習の内容-製作を通して学ぶ-	B
第12回	「絵に表す」「版に表す」学習の指導の在り方について	B
第13回	模擬授業に関する学習の指導案作成と評価の考え方	B
第14回	低・中学年「版に表す」内容に関する模擬授業の発表	B
第15回	中・高学年「絵に表す」内容に関する模擬授業の発表と振り返り	B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	意味のわからない用語は辞書などで調べておくこと			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	課題製作や課外学習のレポートに取り組み、造形表現の豊かさを味わうこと			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題製作やレポートに関しては、求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する
オフィスアワー	井上：金曜日 16:30～18:00 研究室（本館609号室） 松下：月曜日 16:30～18:00 研究室（本館602号室）
テキスト	『小学校 図画工作科教育法』 編著 山口喜雄 建帛社 2018年 2400円 (ISBN : 978-4-7679-2113-6)
参考文献等	小学校学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省） 小学校学習指導要領解説 図画工作編 （平成29年6月 文部科学省）
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること
成績評価の方法	授業への参加態度（20%）、作品評価（30%）、鑑賞学習のレポート（10%）、定期試験（40%）で総合的に評価する
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目 A：井上 B：松下

科目名	幼児と健康	科目ナンバー	J共1111
担当者	大村 一光		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	保育所保育指針及び幼稚園教育要領に示す5領域「健康」の位置づけをもとに、遊びを通じた学習の重要性を理解する。また子どもの健康に関する現代的課題が、身体、心、運動など広範囲にわたることを理解し、健康教育のあり方について学ぶ。
授業の到達目標	1. 子どもの健康問題に関する現代的課題について学習し、教育現場の実情を理解する 2. 乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など幼児の基本的な理解ができるようになる 3. 子どもの健康に関するさまざまな知識を身につけ、子どもとの積極的関わりができるようになる

授業計画		担当者
第1回	領域「健康」の位置づけ 幼稚園教育要領における「健康」内容の理解	大村
第2回	子どもの健康問題に関する現代的課題（主として体の発達、生活習慣を中心に）	大村
第3回	子どもの健康問題に関する現代的課題（主として運動発達と基礎的運動能力を中心に）	大村
第4回	子どもの遊びの発展にみる心や社会性の発達（映像資料などを利用する）	大村
第5回	遊びの分類とその特徴（学生自身の幼児期における遊びの振り返り）	大村
第6回	生活活動における安全の理解（園内生活や活動における安全管理）	大村
第7回	幼児期の怪我の特徴や病気の予防について理解する	宇都
第8回	学習指導案にみる「健康」教育の在り方について	大村
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	保護者や祖父母などへの聞き取りなど、必要に応じて指示する2～3回おきに小レポートを課す場合がある			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	子どもの健康のとらえ方や遊びの特性をとらえることができるようにする			学習合計時間(h)	15時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合、必要に応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する
オフィスアワー	大村：水曜日～金曜日 12:20～13:10 研究室（体育館101号室）
テキスト	『「幼稚園教育要領ハンドブック」 無藤隆監修 Gakken 2017 1,600 (ISBN：978-4-05-800810-2) 『保育所保育指針ハンドブック』 汐見稔幸監修 Gakken 2017 1,700 (ISBN：978-4-05-800806-6) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック』 無藤隆監修 Gakken 2017 1,700 (ISBN：978-4-05-800811-9)
参考文献等	『すこやかな子どもの心と体を育む 運動遊び』 井上勝子編 建帛社 2011 2,300円 (ISBN-13: 978-4767932682)
成績評価基準	子どもの健康問題に関する現代的課題及び教育現場の実情を理解する 乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など理解する
成績評価の方法	定期試験（70％）、 授業での小テスト（30％）
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目



科目名	幼児と言葉	科目ナンバー	J共1114
担当者	藤川 和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について乳幼児の言葉の発達過程について学ぶ。また、幼児にとっての児童文化財についての基礎的な知識を身につけその意義を学ぶとともに、言葉に対する感覚を豊かにする実践における幼児の発達の姿についての見方を養う。
授業の到達目標	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要とされる、乳幼児の言葉の発達過程を踏まえた言葉の意義や機能、児童文化財の意義、言語感覚を豊かにする実践に関する知識を身につける。

授業計画		担当者
第1回	言葉の意義と機能－コミュニケーション場面の分析を通して－	藤川
第2回	乳幼児期の言葉の発達過程－誕生から書き言葉（文字）習得まで－	藤川
第3回	幼児の言葉に関する感覚－幼児の言い間違いを入り口にして	藤川
第4回	言葉遊びの実際－言葉や音そのもののリズム言葉遊び－	藤川
第5回	言葉遊びの実際－言葉の意味や使い方、文字への興味・関心を高める遊び－	藤川
第6回	絵本の鑑賞と理解－作者の仕掛けとその効果の紹介－	藤川
第7回	絵本以外の児童文化材の実際－種類や保育実践の紹介－	藤川
第8回	絵本の読み聞かせ活動の交流（模擬保育）	藤川
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	・テレビ絵本（Eテレ（教育）月～金曜日 午前8時50分～8時55分）の番組を視聴する。あるいは、放送リストにある絵本を参考に週に1冊以上を読む。			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	日常生活の中で見聞きする言葉の中から面白い使われ方や気になる言葉の使い方をするもの探し、収集する。			学習合計時間(h)	15時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合（定期試験を含む）、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	金曜日 13:00～14:00 研究室（西館405号室）
テキスト	『幼稚園教育要領』 文部科学省 フレーベル館 240円（ISBN-10: 4577814471） 『改定版 これだけは知っておきたい保育の基本用語（漢字練習シート付）』 1,000円（ISBN：978-4-907270-04-9）
参考文献等	『ちいさい言語学者の冒険 子どもに学ぶことばの秘密』 広瀬友紀 岩波書店 2017 ￥1,200（ISBN-10: 4000296590） 『絵本のひみつ』 余郷裕次 徳島新聞社 2010 ￥1,000（ISBN-10: 4861324319） 『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館 2018 ￥320（ISBN-10: 457781448X） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省、内閣府、厚生労働省 ￥350 フレーベル館（ISBN-10: 4577814498）
成績評価基準	乳幼児の言葉の発達過程を踏まえた言葉の意義や機能、児童文化財の意義、言語感覚を豊かにする実践に関する知識を身につけること。
成績評価の方法	毎時間の授業感想ミニレポート（15%）、レポート（読み聞かせ活動の振り返り）（45%） 読み聞かせの発表内容（20%）、言葉遊びの発表内容（20%）
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	幼児と表現	科目ナンバー	J共1115
担当者	松下 茉莉香、中村 礼香、小松 恵理子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修：幼教免・保育士証		

授業の概要	<p>幼児の遊びや生活に見られる素朴で多様な表現とその過程について、事例を基に具体的に理解させ、それらを支える身体・造形・音楽表現と、それらを含めた総合的な表現について子どもの発達を中心とした基礎知識や技能を、多様な実践や考察を通して高められるよう講義する。</p>
授業の到達目標	<p>1. 領域「表現」の指導に関する、幼児の姿やその発達及びそれを促す要因について理解する。 2. 幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや、環境の構成などについての知識・技能・表現力を身につける。</p>

授業計画		担当者
第1回	幼児の遊びや生活における表現について	中村
第2回	幼児の表現と発達について	松下
第3回	身近な素材を用いた音楽表現活動について学ぶ	中村
第4回	リトミックについて学ぶ	中村
第5回	わらべうた・伝承遊びについて学ぶ	中村
第6回	幼児の音楽表現活動について学ぶ－実践VTRから－	中村
第7回	幼児の造形活動の特性について学ぶ－視聴覚教材から－	松下
第8回	五感を養う感触遊びについての実践と考察	松下
第9回	身近な素材や絵の具を用いた多様な造形表現活動について学ぶ	松下
第10回	パネルシアター・ペープサートについて学ぶ－実践VTRから－	松下
第11回	身体表現の生成過程について学ぶ－視聴覚教材から－	小松
第12回	幼児の身体表現活動の特性について学ぶ	小松
第13回	身近な生活や素材から身体表現への展開を学ぶ	小松
第14回	身近な自然や文化的活動から身体表現への展開を学ぶ	小松
第15回	総合的な表現活動について	松下・中村・小松

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回の授業内容に関連する資料や教科書を読み、要点をおさえる。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	各時間に習得した内容について復習、整理する。 ・日頃から新聞や書籍等で幼児期の音楽・造形・身体表現に関する内容についての情報収集を積極的に行う。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題が課された際は、求めに応じて個別に指導または授業内で課題の要点に触れる。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	松下：月曜日 12：55～14:25 研究室(本館602号室)、中村：水曜日 10:50～12:20 研究室(本館601号室)、 小松：授業終了後 非常勤講師室(本館104号室)
テキスト	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省）『保育所保育指針』（平成29年3月公示 厚生労働省）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 文部科学省、内閣府、厚生労働省） ※造形に関する講義では、テキストとして『幼児造形の基礎』 編著 樋口一成 萌文書林 平成30年11月9日 2400円 (ISBN：978-4-89347-311-0) も用います。
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する。
成績評価基準	多様な実践や考察を通して子どもの発達を中心とした基礎知識を理解し、表現に関する技能を高められたか。
成績評価の方法	最終レポート各分野(60%) 課題提出・発表等各分野(30%) 授業中の討議・発表への参加態度(10%)
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	保育内容（環境）の指導法	科目ナンバー	J共1218
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	主に幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域のねらい内容についての中身を理論的に学ぶ。また保育指導案の作成についても学び、今後の実習での実践力を高める。
授業の到達目標	幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容5領域のうち「環境」とはどのような狙いと内容を含んでいるか、具体的に理解することを目標とする。また、自ら現場における使える知識としての学習を通して、それを理論的に検証し、保育現場で活用できるようにする。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション（保育内容とは、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）	横峯
第2回	5領域の内容について（自分の幼児期の遊びをもとに）	横峯
第3回	保育指導案の作成について（評価の観点を含む）	横峯
第4回	動物とのかかわり（調べ学習）	横峯
第5回	植物とのかかわり（調べ学習）	横峯
第6回	季節（地域行事）とのかかわり（調べ学習）	横峯
第7回	動物とのかかわり（子どもの中の育ち、保育者の果たすべき役割、調べ学習の振り返り）	横峯
第8回	植物とのかかわり（子どもの中の育ち、保育者の果たすべき役割、調べ学習の振り返り）	横峯
第9回	地域とのかかわり（子どもの中の育ち、保育者の果たすべき役割、調べ学習の振り返り）	横峯
第10回	ものとのかかわり（シャボン玉遊びを通した幼児理解と教材開発、模擬保育）	横峯
第11回	ものとのかかわり（保育者の果たすべき役割、模擬保育の振り返り）	横峯
第12回	自然事象とのかかわり	横峯
第13回	文字・数・量・図形・情報とのかかわり（ICT活用を含む）	横峯
第14回	教育実習日誌について	横峯
第15回	小学校生活科・理科との関係について、総括	横峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	関連のある内容の事例等に興味関心を持って目を通しておくことをすすめる	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	領域「環境」の捉え方を中心に講義が進んでいくことになるので、具体的な事例、教材開発についてが各自の事後学習となる	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題に対しては求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する
オフィスアワー	月曜日 16:30～18:00 研究室（西館401号）
テキスト	幼稚園教育要領 フレーベル社 2017/05 161円 (ISBN : 978-4577814222) 保育所保育指針 フレーベル社 2017/05 161円 (ISBN : 978-4577814239) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル社 161円 2017年 (ISBN : 978-4577814246) 知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域「環境」 秋田喜代美他 2020 みらい 2100円 (ISBN 978-4-86015-515-5)
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する
成績評価基準	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらい・内容について理解すること
成績評価の方法	定期試験（100%）
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	保育内容（言葉）の指導法	科目ナンバー	J共1119
担当者	平嶋 慶子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	幼稚園教育要領・幼保連携認定子ども園教育・保育要領、保育所保育指針における保育内容・領域の概念と領域「言葉」についての学びをベースに、模擬保育（グループごとの実技発表）を通して、児童文化財を用いた遊びや、保育者と幼児の関わりや援助・指導の方法を身につける。
授業の到達目標	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「言葉」のねらい及び内容を学び、幼児の心身の発達や学びの過程を理解する。 2. 領域「言葉」に関連する具体的な保育場面を想定した指導や保育活動を構想する方法や、（言葉）に係る保育技術の一端を習得する。

授業計画		担当者
第1回	就学前教育・保育と幼稚園・保育所：幼稚園教育要領・保育所保育指針の理解（保育内容と領域について）	平嶋
第2回	保育内容「言葉」のねらいと内容について	平嶋
第3回	乳幼児の心身の発達、特に言語発達と遊びの関係・重要性について	平嶋
第4回	児童文化財と保育教材・保育技術について	平嶋
第5回	保育と乳幼児の遊び：保育指導案の作成について	平嶋
第6回	乳幼児期の言葉の発達	平嶋
第7回	遊びの発達とごっこ遊びの重要性	平嶋
第8回	生活と遊びの中での幼児同士の関わり・模擬保育と振り返り①	平嶋
第9回	文字や数字、記号などへの幼児の興味、関心・模擬保育と振り返り②	平嶋
第10回	発達につまずきや遅れのある幼児への配慮・模擬保育と振り返り③	平嶋
第11回	保育者と幼児がつくるより良い環境とは・模擬保育と振り返り④	平嶋
第12回	模擬保育の自己評価と他発表についての評価の検討	平嶋
第13回	情報機器・情報端末の有用性や危険性と子どもの発達の関係・保育の場での活用法	平嶋
第14回	保育における領域「言葉」の評価について	平嶋
第15回	乳幼児の保育・教育における保育内容（言葉）と小学校「国語」との連関及び保育者の役割について	平嶋

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	模擬保育発表のための小グループごとにお話しや指遊び・手遊びその他を調べて、発表内容を決める。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	発表後はレポートを作成することによって自分の発表や他発表を振り返る。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	模擬保育発表の後に、パフォーマンスやレジュメ内容についてフィードバックする。
質問・相談方法	授業後やオフィスアワー、SMにて応じます。
オフィスアワー	月・水・金曜日 16:10～17:00 研究室（西館416号室）
テキスト	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 『新 保育内容シリーズ〔新訂〕 子どもと言葉』 岡田明編 2016 萌文書林 1600円（ISBN：978-4-89347-067-6 C 3037）
参考文献等	『絵本のひみつ』 余郷裕二 南日本新聞社 2010 1,045円（ISBN：978-4-7638-0634-5） など適宜授業中に紹介する
成績評価基準	幼児の発達と保育の関係を理解した上で模擬保育を計画することができ、模擬保育発表後に自分の発表及び他の発表を評価（レポート作成）したものは合格とする。
成績評価の方法	①模擬保育（30%）②発表資料の作成（20%）③レポート提出（模擬保育の最終発表終了後に作成する。30%）④授業中の討議・発表への参加態度（20%） ただし①②③の一つでも欠けると評価しない。
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目



科目名	保育内容（表現）の指導法	科目ナンバー	J共1220
担当者	中村 礼香、松下 茉莉香、小松 恵理子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修：幼教免 保育士証		

授業の概要	領域「表現」のねらいや内容について解説し、音楽表現、造形表現、身体表現のそれぞれの視点から表現について捉えた上で、総合的な表現活動について理解を深められるように講義する。その上で保育指導案の作成及び模擬授業により実践力を高める。
授業の到達目標	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、領域「表現」のねらい及び内容について理解を深める。 2. 幼児の発達に即した表現に関わる具体的な保育援助・指導方法を身に付ける。

授業計画		担当者
第1回	領域「表現」と幼児の表現について	小松
第2回	領域「表現」のねらい・内容・指導上の留意点についてⅠ（音楽表現に関する内容）	中村
第3回	領域「表現」のねらい・内容・指導上の留意点についてⅡ（造形表現に関する内容）	松下
第4回	領域「表現」のねらい・内容・指導上の留意点についてⅢ（身体表現に関する内容）	小松
第5回	情報機器を活用した実践映像から見る子どもの表現活動の理解	松下
第6回	表現活動から育まれる資質・能力について	中村
第7回	幼児の表現の発達	松下
第8回	領域「表現」の指導案について	松下
第9回	模擬保育に向けた指導案作成について	小松
第10回	自然を題材とした模擬保育	中村
第11回	生活を題材とした模擬保育	松下
第12回	行事や地域文化を題材とした模擬保育	小松
第13回	模擬保育の振り返り	小松
第14回	領域「表現」と他領域との関わり及び小学校の教科等とのつながりについて	中村
第15回	国内外の保育実践例の紹介	中村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・ 模擬保育に向けて事前に指導案を作成し、練習を行った上で臨むこと。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・ 各時間に習得した内容について復習整理すること。 ・ 日頃から新聞や書籍等で幼児期の音楽・造形・身体表現に関する内容についての情報収集を積極的に行うこと。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	授業の中で模擬保育についての振り返りを行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	中村：月曜日 13:10～14:40 研究室（本館601号室） 松下：金曜日 16:30～18:00 研究室（本館602号室） 小松：授業終了後 非常勤講師室（本館104号室）
テキスト	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 平成30年 240円（税抜き）（ISBN：978-4-577-81447-5） 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 平成30年 320円（税抜き）（ISBN：978-4-577-81448-2） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 平成30年 350円（税抜き）（ISBN：978-4-577-81449-9）
参考文献等	『幼児造形の基礎』 編著 樋口一成 萌文書林 2018年11月9日 2400円（税抜き）（ISBN：978-4-89347-311-0）
成績評価基準	領域「表現」のねらい及び内容について理解し、模擬保育に反映させることができること。
成績評価の方法	模擬授業(30%)、最終レポート(40%)、製作(20%)、受講態度(10%)
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	教育原理	科目ナンバー	J共3205
担当者	山元 有一		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	まず「教育とは何か？」を考え、ついで教育史から現代の教育の動向の必然性や課題を探る。同時に、過去の教育（学）者からもこの問いに向かうことになる。これらを通して、教育の理念、目的について学ぶ。
授業の到達目標	教育の基本的な考え方と目標について個人や集団・社会を視野に収めながら、教育史や教育思想に沿って教育と教育施設の理解を深めることができる。

授業計画		担当者
第1回	教育と個々人—成長の援助と覚醒としての教育	山元
第2回	教育と地域・社会—有意義な社会の再生産としての教育	山元
第3回	教育と文化あるいは異文化—文化の伝承と増殖としての教育	山元
第4回	児童中心主義の理念—その誕生の経緯と内容、課題	山元
第5回	近代家族の成立と学校—公教育制度の成立と世代の明確化	山元
第6回	ソクラテス・ルソー・フレーベル—産馬術・消極教育・「子どもから」	山元
第7回	ペスタロッチの「生活が陶冶する」—生活を前提とした合科教授の考え方	山元
第8回	デュイと「民主主義と教育」—現代日本の学校の理念と歴史	山元
第9回	現代の教育課題（その1）—少子化、遊び集団・学習集団の縮小化	山元
第10回	現代の教育課題（その2）—社会問題としてのいじめ（ネット化も含めて）	山元
第11回	現代の教育課題（その3）—家庭問題としての虐待（歴史的事例も含めて）	山元
第12回	子どもと教育目標としての自立・自律—物語等に見る成長課題としての自立	山元
第13回	子供の成長と教育計画—意図的教育と非意図的教育	山元
第14回	子供の成長と教員の人格—「なるべきものになっていること」	山元
第15回	将来的にあるべき教育と学校の姿—国際化（社会化）と個性化	山元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりでいる。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く 15:00~17:00 (西館4階406号室) 要事前連絡 (連絡方法は初回の講義で伝える)
テキスト	特になし
参考文献等	『経験と教育』 ジョン・デューイ 講談社学術文庫 『学校と社会』 ジョン・デューイ 岩波文庫 その他、授業計画に挙げられている教育学者の著作 (文庫で入手可能)
成績評価基準	定期試験とレポートが上記の「授業の到達目標」を満たしていること。
成績評価の方法	定期試験 (80%)、2回分のレポート (各10%)
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	保育原理	科目ナンバー	J共3102
担当者	丸田 愛子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	「保育」の役割や施設保育の目的を理解し、保育の思想や歴史や制度を踏まえた上で現代保育の課題解決について学ぶ。保育士・幼稚園教諭・保育教諭・小学校教諭の専門性について講義する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。</li> <li>2. 教育を成り立たせる子ども、教員及び家族等の相互関係を理解している。</li> <li>3. 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	丸田
第2回	「保育」の概念と意義について、養護と保育及び子どもの最善の利益の観点から学ぶ	丸田
第3回	保育所・幼稚園・認定こども園の施設保育の目的を理解する	丸田
第4回	養護と保育の一体性について学び、子どもの生活と遊び（活動）について考える	丸田
第5回	子育て支援及び地域貢献を理解し、教育・保育における相互関係について学ぶ	丸田
第6回	保育内容5領域を学び、総合的な教育・保育の在り方について検討する	丸田
第7回	発達過程をもとに、特別な支援を要する乳幼児を含め一人ひとりに応じた保育援助の方法を学ぶ	丸田
第8回	教育・保育に関する計画を理解し、ICTを用いて立案する能力を養う	丸田
第9回	教育・保育に関する評価を理解し、保育者の資質向上について考える	丸田
第10回	保育に関する計画のグループ発表及び中間まとめに取り組む	丸田
第11回	保育の歴史について基本的な知識を身につける	丸田
第12回	保育の歴史について過去から現代に至るまでの変遷について捉える	丸田
第13回	近代社会以降の教育・保育制度及び思想を学び、現代保育の課題を解決する能力を養う	丸田
第14回	現代社会以降の教育・保育制度を学び、現代保育の課題を解決する能力を養う	丸田
第15回	現代社会の教育・保育制度を理解し、自らの生活で活用する方法を考える	丸田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	幼稚園教諭・保育園長の実務経験を活かし、教育・保育の本質を明らかにし、現代社会の教育・保育課題について教授する。		
事前学習	配布プリントは、資料として整理し、学習内容を予習する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習内容を復習し、不明な点を残さないようにすること	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合、授業内で課題の要点に触れる。個別に指導添削をする。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等を活用して対応する
オフィスアワー	火曜日 14:40~17:55 研究室(西館403号室)
テキスト	・『保育の実践・原理・内容 第3版』無藤隆 編 ミネルヴァ書房 2016年 2,400円(税抜き) ISBN978-4-623-06648-3 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省 平成30年 320円(税抜き) ISBN978-4-577-81448-2 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 平成30年 350円(税抜き) ISBN978-4-577-81449-9 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 平成30年 240円(税抜き) ISBN978-4-577-81447-5
参考文献等	『保育所保育指針ハンドブック』監修 汐見稔幸 学研教育みらい 2017 1,700円(税抜き) (ISBN: 978-4058008096)
成績評価基準	教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解すること
成績評価の方法	受講態度及び課題の提出状況(20%)及び定期試験(80%)による総合評価とする
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	教職概論	科目ナンバー	J共3101
担当者	山元 有一		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	教員を社会的、歴史的、法的、倫理的に学ぶことを通して、教職を目指す者として知識面や人格面で今後何が必要であるのかを、自分自身を吟味しながら深めていく内容を提供する。
授業の到達目標	現代における教員の活動は多岐にわたり、しかも極めて重要である。本講義では、教職の意義、教員の役割、教員の資質について考え、学生自らが教員としての適性を吟味し、また深める機会とする。

授業計画		担当者
第1回	なぜ家庭でなく学校、親でなく教員なのか？—学校と教員の存在意義	山元
第2回	教職の職業的特徴と使命—教育の専門家にして全体的人間としての教員	山元
第3回	自分自身を知ること—「子どもは教員の鏡」	山元
第4回	現代の社会と教育の動き—『教育要領』、『指導要領』からの読解と教員に求められる事柄	山元
第5回	幼稚園教諭の職務内容と求められる資質	山元
第6回	小学校教諭の職務内容と求められる資質	山元
第7回	学校内での連携—教員間の連携、養護教諭や栄養教諭との連携（学校等のチーム化）	山元
第8回	小幼連携、小中連携、小保連携、地域との連携—学校等のチーム化（その2）	山元
第9回	子どもの理解を深め、教育力を上げるにはどうするか？—職員研修、生涯に渡る学習の必要性	山元
第10回	教育法規①—教育基本法	山元
第11回	教育法規②—学校教育法、学校教育法施行規則等	山元
第12回	服務規律・守秘義務について	山元
第13回	教育観・教師観の歴史的変遷と現代	山元
第14回	どんな子どもを育てたいか、どんなクラスを作りたいか？	山元
第15回	自分自身に即した教師像を求めて—教育の目的と教員の資質	山元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。	学習合計時間(h)	20時間
事後学習	講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりでいる。	学習合計時間(h)	40時間

課題に対する フィードバックの 方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く 15:00~17:00 (西館4階406号室) 要事前連絡 (連絡方法は初回の講義で伝える)
テキスト	『幼稚園教育要領』、『小学校学習指導要領』 (文部科学省編)
参考文献等	特になし
成績評価基準	提出されたレポートが上記の「授業の到達目標」を満たしていること。
成績評価の方法	最終レポート (100%)
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目



科目名	教育制度論	科目ナンバー	J共3104
担当者	池田 哲之		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免 選択：保育士証		

授業の概要	<p>・公教育の位相は時代・社会とともに変化するという事実を、戦前・戦後のわが国統治構造および公教育 関係法令との対比において検証してゆく。</p> <p>・立憲主義理念に依拠した現代公教育の規範的特質を抽出するとともに、時事的教育問題を適宜取り上げ、今日の公教育に求められる機能・役割を考察する。</p>
授業の到達目標	<p>1. 近代公教育成立の社会背景を知り、その基本的枠組みについて理解している。</p> <p>2. 現行日本国憲法下の公教育制度の特質を、関係主要法令に基づき説明することができる。</p> <p>3. 公教育が直面する諸課題を認識し、課題解決に資する方策提示への視点がえられている。</p>

授業計画		担当者
第1回	公教育の成立－諸外国の事例－	池田
第2回	わが国公教育の創出－明治前期の学校教育－	池田
第3回	教育勅語体制－戦前日本の公教育像－	池田
第4回	日本国憲法と教育基本法	池田
第5回	改正教育基本法（1）－改正の社会的・政治的背景－	池田
第6回	改正教育基本法（2）－その特徴と課題－	池田
第7回	学校制度の基本－学校教育法を軸に－	池田
第8回	教員養成および教員研修制度－教育職員免許法・教育公務員特例法を軸に－	池田
第9回	初等中等教育行政と教育委員会制度－地教行法を軸に－	池田
第10回	教育政策の決定過程－政党政治と文科省－	池田
第11回	学校と地域社会－近年の動静と連携制度－	池田
第12回	学校事故・事件の実相	池田
第13回	学校危機管理への視座－関連法制および取組の実際－	池田
第14回	現代公教育の課題（1）－「特別の教科」道徳の教授法・伝統日本文化教育私論－	池田
第15回	現代公教育の課題（2）－主権者教育の方向性－	池田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストの授業予定箇所を読み込み、不明部分は資料等を検索し調べておくこと。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中・後に提示された課題研究に取り組むこと。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題にたいする参考答案例の配布・解説をとおし、知識・理解の整理を図る。
質問・相談方法	授業時間の前後またはオフィスアワーにおいて受付ける。
オフィスアワー	原則として 水曜日 16:30~17:30 研究室（西館414号室）
テキスト	『教育の本質と教師の学び』 池田哲之ほか著 学文社 2019年 (ISBN: 978 - 4 - 7620 - 2852 - 6)
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『「学校」をつくり直す』 河出書房新社 2019年</li> <li>・『日本人のしつけは衰退したか』 講談社 2008年</li> </ul>
成績評価基準	公教育の本質および制度の理解のうえに、今日の学校教育をめぐる諸課題解決の方策を提示することができる。
成績評価の方法	定期試験（90%）、受講意欲・態度等（10%）。なお再試は1回にかぎり実施する。
GPA基準	
備考	<p>単位互換 [KRICE] 提供科目</p> <p>上記記載の各内容は、受講生数・受講生の理解度により変更となる場合があります。</p> <p>学生証不携帯の出席確認未了者は欠席扱いとします。</p>

科目名	教育心理学	科目ナンバー	J共3103
担当者	今村 幸子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証、ピアヘルパー		

授業の概要	<p>1. 幼児、児童、生徒の心身の発達過程に関する代表的な理論を理解し、乳幼児期から青年期における発達の諸側面を知ることで、教育における発達の理解を図る。</p> <p>2. 学習に関する基礎知識を身に付け、発達の視点をもって学習を支える指導について基礎的な考え方を講義する。</p> <p>3. 課題についての討議、グループワーク、発表などを行うとともに、情報機器の活用方法を学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について説明できる</p> <p>2. 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支援する基礎となる考え方を説明できる</p>

授業計画		担当者
第1回	保育・教育における心理学的理解の必要性について理解する	今村
第2回	発達に関する基礎的事項について理解する(エリクソン)	今村
第3回	発達に関する代表的な理論を理解する(ピアジェ)	今村
第4回	学習意欲に影響する理論について理解する	今村
第5回	教授・指導法について理解する	今村
第6回	子どもの認知特性に応じた指導について理解する	今村
第7回	知能の構造について理解する	今村
第8回	パーソナリティと自己肯定感の形成について理解する	今村
第9回	アセスメントと教育評価について理解する	今村
第10回	社会性の発達について理解する	今村
第11回	学級経営・集団作りに対する保育者・教員の影響について理解する	今村
第12回	教育上の諸問題(小1プロブレム・不登校・いじめ等)とその背景について理解する	今村
第13回	ストレスへの適応、心の問題への対応方法について理解する	今村
第14回	障害のある子どもの教育について理解する	今村
第15回	特別なニーズの概念と指導法について理解する	今村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		
担当教員の実務経験と授業の関連	認定こども園での勤務や発達障害児への心理臨床の経験を活かし、発達の視点をもって学習を支える指導について教授する				
事前学習	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと 日頃から、ネットや文献等で子どもに関する情報を得ておくこと			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	テキストや授業時に配布したプリントを復習しておくこと			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を出した場合、求めに応じて対応する
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	水曜日 16:30~18:00 研究室（西館311号室）

テキスト	『理論と実践をつなぐ教育心理学』杉本明子・西本絹子・布施光代編 2019年 2400円（ISBN 978-4-86015-465-3）
参考文献等	特になし
成績評価基準	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について理解すること 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支援する基礎となる考え方を理解すること
成績評価の方法	定期試験（80%）、ミニレポート提出及び授業参加態度（20%）
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目、他学科開放科目

科目名	特別支援教育・保育	科目ナンバー	J共3206
担当者	今村 幸子、宮里 新之介		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	<p>1. 特別支援教育に携わる教師等に求められる様々な障害ある子どもや特別な配慮を必要とする子どもの教育を支える制度や教育上の仕組みを講義する。</p> <p>2. グループディスカッション等を通して、子どもの具体的な指導・支援について、教師等としての指導の重要性を講義する。</p>
授業の到達目標	<p>1. 様々な障害等の概念について説明できる</p> <p>2. 特別支援教育の歴史の変遷と制度について説明できる</p> <p>3. 様々な障害や特別な配慮を必要とする子どもの指導・支援を説明できる</p>

授業計画		担当者
第1回	特別支援教育の理念と制度を理解する	今村
第2回	インクルーシブな学校等と特別な配慮を必要とする障害のない幼児児童生徒について理解する	今村
第3回	特別支援教育の歴史について理解する	今村
第4回	特別支援教育の教育課程について理解する	今村
第5回	視覚障害とその教育について理解する	今村
第6回	聴覚障害とその教育について理解する	今村
第7回	知的障害とその教育について理解する	今村
第8回	肢体不自由とその教育について理解する	今村
第9回	病弱・身体虚弱とその教育について理解する	今村
第10回	自閉症・情緒障害とその教育について理解する	宮里
第11回	言語障害とその教育について理解する	今村
第12回	学習障害とその教育について理解する	今村
第13回	注意欠陥・多動性障害とその教育について理解する	宮里
第14回	教育と福祉・医療・労働との連携について理解する	今村
第15回	教師の専門性と研修の意義・課題について理解する	今村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連	特別支援学等の実務経験を活かし、障害のある子ども等の支援の在り方について教授する。				
事前学習	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと 日頃から、ネットや文献等で特別支援教育に関する情報を得ておくこと			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	テキストや授業時に配布したプリントを復習しておくこと			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を出した場合、求めに応じて対応する
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	今村 …水曜日 16:30~18:00 研究室(西館311号室) 宮里 …木曜日 10:35~12:05 研究室(本館312号室)
テキスト	『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』 小林徹・栗山宣夫 編 みらい 2020年 2400円 (ISBN 978-4-86015-9 C3337)
参考文献等	『障害児保育ー子どもとともに成長する保育者を目指してー』 藤永保監修 萌文書林 2018年 1900円(税抜き) (ISBN: 978-4-89347-310-3)
成績評価基準	様々な障害等の概念について理解すること 特別支援教育の歴史的変遷と制度について理解すること 様々な障害や特別な配慮を必要とする子どもの指導・支援を理解すること
成績評価の方法	定期試験(80%)、ミニレポート提出及び授業参加態度(20%)
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	教育の方法・技術	科目ナンバー	J小1235
担当者	松崎 康弘		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	前半は古今東西の様々な理論を学び、教育方法の普遍と流行について理解を深める。中盤は具体的な教育実践の分析に基づき、教育方法の在り方を考える。後半は指導案の作成やICTの活用について学び、実践的な力を高める。
授業の到達目標	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識並びに技能を身に付ける。

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション（本授業の目的の説明）	松崎
第2回	日本における教育方法の基礎的理論・実践（三澤勝衛らを事例に）	松崎
第3回	世界における教育方法の基礎的理論・実践（デューイらを事例に）	松崎
第4回	主体的・対話的で深い学びの実現等のための教育方法	松崎
第5回	学校教育以外の教育方法を学ぶ。（NPO活動における教育実践等を通して）	松崎
第6回	授業を構成する基礎的な要件（授業映像の分析から）	松崎
第7回	資質・能力及び学習評価の基礎的な考え方（ルーブリックなど）	松崎
第8回	学習過程を可視化する方法（思考ツールの活用等）	松崎
第9回	授業を行うための基礎的な技術(1)（大瀬実践等をもとに）（主に話法）	松崎
第10回	授業を行うための基礎的な技術(2)（鹿児島市立小学校の事例をもとに）（主に板書等）	松崎
第11回	学習指導案の作成方法（鹿児島県内の小学校の学習指導案を事例に）	松崎
第12回	学習指導案の作成（防災教育をテーマに）	松崎
第13回	情報機器の効果的な活用方法を学ぶ。（鹿児島県の研究校の事例をもとに）	松崎
第14回	情報活用能力を育成するための指導法	松崎
第15回	小学校教育にふさわしい教育方法の在り方	松崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	時事に向けて考察課題を提示するので、回答する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	定期試験に向けて総復習を行う	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	月曜日 14:30~16:20 研究室（西館411号室）

テキスト	特になし
参考文献等	『教育技術MOOK 各教科・領域別 考える力を育てる学習のしつけ』 田村学監修 鹿児島市立 田上小学校編著 小学館 2015年ほか
成績評価基準	教育の方法や技術（ICT活用を含む）に関する基礎的な知識及び技能を有している。
成績評価の方法	定期試験(100%)
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目、 他学科開放科目



科目名	保育の方法・技術	科目ナンバー	J共1236
担当者	今村 幸子、宇都 弘美		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	幼児期に育みたい資質・能力について理解し、保育内容の各領域について、ねらいと内容を専門的領域と関連させて理解するとともに、具体的な指導をするための方法や技術を講義する。
授業の到達目標	1.幼稚園教育・保育所・幼保連携型認定こども園等における教育・保育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解し、幼児期における育みたい資質・能力との関連を説明できる 2.幼児の主体的・対話的で深い学びを促す具体的な保育指導方法を説明できる

授業計画		担当者
第1回	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育・保育要領の全体構造を把握する	今村
第2回	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の保育の基本を理解し、各領域の保育内容について理解する	今村
第3回	各領域の指導内容を理解し、指導上の留意点を理解する（幼稚園）	今村
第4回	乳児を含めた指導内容を理解し、指導上の留意点を理解する（保育所・幼保連携型認定こども園）	宇都
第5回	保育・教育の評価について理解する	今村
第6回	領域ごとに身に付けていく内容と小学校の教科とのつながりについて理解する	今村
第7回	乳幼児期における学びの特性について理解する	宇都
第8回	乳幼児期にふさわしい学びの方法を理解し、保育を構想する重要性を理解する	今村
第9回	情報機器を活用し保育に生かすことができる	今村
第10回	指導案の構造を理解する	今村
第11回	具体的な保育を想定し、指導案を作成することができる	今村
第12回	指導案における教師の援助について理解を深め、具体的に考えることができる	今村
第13回	模擬保育を行い、保育を実践する力を身に付ける	今村
第14回	模擬保育の振り返りを通して、保育の問題点を挙げて、改善すべき点に分かる	今村
第15回	保育の実践記録をから、保育の構想の向上に取り組むことができる	今村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○
担当教員の実務経験と授業の関連	幼保連携型認定こども園での実務経験を活かし、具体的な指導をするための方法や技術等を教授する				
事前学習	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと 日頃から、ネットや文献等で子どもに関する情報を得ておくこと			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	テキストや授業時に配布したプリントを復習しておくこと			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合に応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	今村：水曜日 16：30～18：00 研究室（西館311号室） 宇都：金曜日 16：30～18：00 研究室（西館306号室）

テキスト	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2018 240円（税抜き）（ISBN：978-4577814475） 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 2018 320円（税抜き）（ISBN：978-4577814482） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館 2018 350円（税抜き）（ISBN：978-4577814499）
参考文献等	『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』 小櫃 智子編著 わかば社 2017年 1400円（税抜き）（ISBN：978-4-907270-15-5）
成績評価基準	幼稚園教育・保育所・幼保連携型認定こども園等における教育・保育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解し、幼児期における育みたい資質・能力との関連が分かること 幼児の主体的・対話的で深い学びを促す具体的な保育指導方法を理解すること
成績評価の方法	定期試験（80%）、ミニレポート提出及び授業参加態度（20%）
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目、他学科開放科目

科目名	生徒指導・進路指導	科目ナンバー	J小1237
担当者	松元 理恵子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	「子どもの生きる力を育てる」という観点より、一人ひとりの子どもが自分の持ち味、個性をいかせる生徒指導の教育的意義と課題について説明する。進路指導については、将来の進路を選ぶ力を育て、長期的展望を見据えた援助や指導について説明する。また、子どもの個性や能力を最大限に伸ばしていくための理解と社会的・職業的自立に向けた授業や体験活動について学び、必要な知識と素養を明らかにしながら、学校内外で組織的に生徒指導・進路指導をすすめていけるための実践力について学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける</li> <li>2. 一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを理解できるようになる</li> <li>3. 学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を学び、説明できる</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	生徒指導の意義と特質（生徒指導とは何かを学ぶ）	松元
第2回	学校内外の組織体制（校務分掌、チーム学校と運営及び関係法令を学ぶ）	松元
第3回	生徒指導の機能について（生徒指導の目標、集団指導及び個別指導を学ぶ）	松元
第4回	道徳教育・特別活動における生徒指導の意義と重要性（生活習慣の確立と規範意識について学ぶ）	松元
第5回	子どもの発達プロセス1（発達課題に応じたキャリア教育の指導の在り方について学ぶ）	松元
第6回	子どもの発達プロセス2（仲間関係、自己肯定感を育てる場のづくり方）	松元
第7回	心理教育プログラム（体験学習）	松元
第8回	「いじめ」の理解と対応について	松元
第9回	特別な支援、配慮が必要な児童へのかかわりについて	松元
第10回	不登校の理解と指導（定義や支援の在り方について）	松元
第11回	事例検討（「いじめ」「不登校」に関する対応の仕方を学ぶ）	松元
第12回	事例検討（「虐待、インターネット及び性」に関する対応を学ぶ）	松元
第13回	進路指導とキャリア教育上の課題について（キャリア教育の定義と全体と個別指導の在り方、ポートフォリオ活用を学ぶ）	松元
第14回	キャリア・カウンセリングの理論について（基礎的な考え方とカウンセリングとしての指導を学ぶ）	松元
第15回	進路指導の進め方の体験学習（事例検討により家庭及び関係機関との連携の仕方について学ぶ）	松元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連	臨床心理士の実務経験を活かして、心理的援助について教授する。				
事前学習	・各回の授業からキーワードになる言葉や概念を5語程ピックアップし、説明できる程度に理解を深める ・身近な例を取り上げ、それらを上記のキーワードを使用して説明			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・今後の日常生活にどのように授業内容を活かせるか、考える			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した際に質問について受け付け、授業内でのフィードバック及び求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	火曜日・木曜日 12:05~12:55 研究室（西館305号室）
テキスト	特になし
参考文献等	『はじめて学ぶ生徒指導・進路指導』 広岡義之編 ミネルヴァ書房 2016年 2,200円（税抜） （ISBN：9784623075607）
成績評価基準	生徒指導をすすめていくために、進路指導・キャリア教育の視点にたった授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実のために必要な知識と技能を理解すること。
成績評価の方法	定期試験（70%）、講義で出した課題（レポート等）の提出状況（30%）で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	幼稚園教育実習Ⅰ指導	科目ナンバー	J共2204
担当者	中村 礼香、横峯 孝昭、丸田 愛子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修：幼教免 選択：小教免		

授業の概要	1年次後期に2週間実施される附属幼稚園の教育実習にかかる、事前指導・事後指導を行う。効果的な実習の展開を目指すとともに、幼稚園教諭（間接的には小学校教諭）として求められる基本的資質・能力の育成を図る。
授業の到達目標	1. 実習準備として、幼稚園について理解を深め、心構えを持つ 2. 保育計画を立て、具体的に準備する 3. 実習を振り返り、幼児教育の理解を深める

授業計画		担当者
第1回	実習の概要について（目的と意義）	A
第2回	実習に関する諸連絡と注意（夏休み期間の宿題の確認）	A
第3回	実習に関する諸連絡と注意（必要書類の説明と提出・態度やマナーについて）	A
第4回	附属幼稚園でのオリエンテーション（設定保育のテーマ提示）	B
第5回	附属幼稚園でのオリエンテーション（園における情報提供）	B
第6回	歌・体操・絵画製作等の指導	B
第7回	附属幼稚園でのオリエンテーション（設定保育の4案提示から1案への決定及び指導案の指導）	B
第8回	附属幼稚園でのオリエンテーション（設定保育外の決め事）	B
第9回	実習事後指導（実習Ⅰ反省、幼稚園実習Ⅱへ向けた指導）	A
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	・実習以前における附属幼稚園でのボランティア活動等を積極的に行う ・教材研究をしっかりと行いながら保育計画を考える			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	・実習以前における附属幼稚園でのボランティア活動等を積極的に行う ・教材研究をしっかりと行いながら保育計画を考える			学習合計時間(h)	15時間

課題に対する フィードバックの 方法	求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワー、その他空きコマに対応する
オフィスアワー	月曜日 16:30～18:00 研究室（西館401号）
テキスト	教育実習の手引き（本学作成） 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 平成30年3月 240円（税抜き）（ISBN：978-4-577-81447-5）
参考文献等	特になし
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての実習指導への受講・諸注意をしっかりと守ること</li> <li>・実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に関する課題や認識を明確にする</li> </ul>
成績評価の方法	事後指導におけるレポート（100%）
GPA基準	
備考	A：横峯、丸田、中村 B:附属幼稚園担当者

科目名	幼稚園教育実習Ⅰ	科目ナンバー	J共2203
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免		

授業の概要	幼稚園教諭（小学校教諭）として必要な資質を養成するために実際の保育を経験し、さらに社会人としての基本的な勤務態度を身につける。幼稚園教諭二種免許状（小学校二教諭種免許状）を取得するためにこの実習を実施する。
授業の到達目標	1. 幼稚園、幼児、幼稚園教諭の活動と職務について、体験的に理解する 2. 観察や実践を通して、保育、教育技術を身に付ける 3. 保育観・教育観を確立し、社会人としての行動が取れるようになる

授業計画	担当者
第1回 実習開始式、対面式（全園児と全実習生、代表挨拶）	各実習園の担当者
第2回 観察実習（園生活の流れ、環境構成、幼児の実態、教師の援助や職務）	各実習園の担当者
第3回 参加実習（担任教諭の指導のもとで、補助として保育に当たる等）（ICT活用を含む）	各実習園の担当者
第4回 指導案作成に向けた主任教諭による研修Ⅰ	各実習園の担当者
第5回 指導保育（実習園の先生による実習生への公開保育）	各実習園の担当者
第6回 保育研究会（指導保育について、実習生が学んだことを班毎に発表する）	各実習園の担当者
第7回 園長による講話、主任教諭による研修Ⅱ	各実習園の担当者
第8回 担当保育実習に向けた取り組み① 保育指導案の作成	各実習園の担当者
第9回 担当保育実習に向けた取り組み② 保育指導案の検討	各実習園の担当者
第10回 担当保育実習の実施	各実習園の担当者
第11回 担当保育実習の振り返り	各実習園の担当者
第12回 お別れ会（全園児と全実習生、代表挨拶、歌など）	各実習園の担当者
第13回 クラスお別れ会（出し物、歌、プレゼントなど）	各実習園の担当者
第14回 実習総反省会	各実習園の担当者
第15回 実習終了式	各実習園の担当者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	事前指導等で指示された内容をしっかりと学習すること	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎日反省会等で出た課題についてしっかりと取り組むこと	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	実習前後の空きコマやオフィスアワー等で対応する
オフィスアワー	月曜日 16:30~18:00 研究室（西館401号室）
テキスト	教育実習の手引き（本学作成） 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 平成30年3月 240円（税抜き）（ISBN：978-4-577-81447-5）
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標にあげた項目を理解し、身につけること
成績評価の方法	1. 実習記録に関わるもの：主に日誌の書き方や内容が評価される 2. 保育の実践に関わるもの：教材の研究、指導案の作成、保育技術、幼児の理解などが評価される 3. 実習態度に関わるもの：実習に対する意欲、事務処理、実習態度などが評価される 上記を総合的に評価（100%）
GPA基準	
備考	1. 幼稚園教育実習Ⅰ指導にすべて参加すること 2. 実習に参加するためには、学生便覧に示された実習参加要件をすべて満たすこと 3. 横峯の指示の下、短大教員も園を訪問して指導を行う



科目名	社会福祉	科目ナンバー	J共1155
担当者	平本 讓		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	社会福祉とは、個人が社会生活をしていく上で生じる障害や困難に対して、社会福祉政策、地域社会、個人などが独自にあるいは相互に協働しながら、これを解決あるいは緩和していくための活動の総体である。本科目では、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、社会福祉の制度や実施体系等、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組み、及び社会福祉の動向と課題の理解を目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する</li> <li>2. 社会福祉の制度や実施体系及び社会福祉における相談援助について理解する</li> <li>3. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する</li> <li>4. 社会福祉の動向と課題について理解する</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	社会福祉の理念と概念	平本
第2回	社会福祉の歴史の変遷	平本
第3回	子ども家庭支援と社会福祉	平本
第4回	社会福祉の制度と法体系	平本
第5回	子ども家庭福祉の制度と法体系	平本
第6回	社会福祉施設及び社会福祉専門職	平本
第7回	社会保障及び関連制度の概要	平本
第8回	相談援助① 理論	平本
第9回	相談援助② 意義と機能	平本
第10回	相談援助③ 対象と過程	平本
第11回	相談援助④ 方法と技術	平本
第12回	利用者保護に関わる仕組み① 情報提供と第三者評価	平本
第13回	利用者保護に関わる仕組み② 利用者の権利擁護と苦情解決	平本
第14回	現代社会の動向と課題① 少子高齢化社会における子育て支援、共生社会の実現	平本
第15回	現代社会の動向と課題② 在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の動向	平本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業で示す事前学習課題に取り組む 書籍、新聞、インターネット等で児童家庭福祉、社会的養護、障害児・者福祉、子育て、児童虐待、社会保障制度等の現状や課題について調べ、理解を深める			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で示す事後学習課題に取り組む 書籍、新聞、インターネット等で児童家庭福祉、社会的養護、障害児・者福祉、子育て、児童虐待、社会保障制度等の現状や課題について調べ、理解を深める			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室（西館409号室）
テキスト	『よくわかる 社会福祉』 児童育成協会監修 ミネルヴァ書房 2019年 2500円
参考文献等	『保育学用語辞典』 秋田喜代美監修 中央法規 2019年 4400円 (ISBN : 9784805859360)
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること。
成績評価の方法	事前・事後課題（20%）と期末試験（80%）で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目 COC関連科目

科目名	情報機器演習	科目ナンバー	J共1156
担当者	渡邊 光浩		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	コンピュータなどICT（情報通信技術）機器によるインターネット利用が広く普及している。さらに、モバイル機器やタブレットで写真を撮ったり、音楽や映像を楽しんだり、情報メディアも多様化している。このような現在において、コンピュータやその他のICT機器操作の基礎を身につけ、教育現場でもICT機器を活用できることを目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ICT(情報通信技術)機器の基本的な操作ができるようになる</li> <li>2. インターネットを利用できるようになる</li> <li>3. ICT機器を教育現場で活用できるようになる</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション～情報機器とは	渡邊
第2回	コンピュータとインターネットの歴史 / キーボード入力	渡邊
第3回	ブラウザを使おう～ネット検索のコツ	渡邊
第4回	短大のWi-Fiにつなごう / 情報セキュリティを学ぼう	渡邊
第5回	短大図書館での情報の探し方を知ろう	渡邊
第6回	Wordを使ってみよう(1)～園だよりを作ろう1	渡邊
第7回	Wordを使ってみよう(2)～園だよりを作ろう2	渡邊
第8回	Wordを使ってみよう(3)～指導案を作ろう1	渡邊
第9回	Wordを使ってみよう(4)～指導案を作ろう2	渡邊
第10回	Excelを使ってみよう～会計表を作ろう	渡邊
第11回	PowerPointを使ってみよう(1)～自分をプレゼンテーションしよう	渡邊
第12回	PowerPointを使ってみよう(2)～教材を作ってみよう	渡邊
第13回	実物投影機を使ってみよう	渡邊
第14回	著作権について考えよう / Webの記事を作成しよう	渡邊
第15回	タブレットPCを体験しよう	渡邊

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	小学校教諭、宮崎県教育研修センター長期研究員としての実務経験を活かして教育現場でのICTの操作や活用法について教授する。		
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識や操作を確認し、必要に応じて事前に調べたり、練習したりしておく。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・復習し、理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。 ・最終課題のために総復習をする。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	・毎回のレポートについてのフィードバックは、次の時間に全体の場で行う。個別に対応が必要な 場合、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーの利用をする。
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、授業支援ツールの連絡機能で対応する。
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:25～17:55 研究室（西館417号室）
テキスト	特になし
参考文献等	『30時間でマスター Office2019』 実教出版企画開発部 実教出版 2019年 1000円（税抜き） （ISBN：978-4-407-34835-4） 『保育者のためのパソコン講座』 阿部正平・阿部和子・二宮祐子 萌文書林 2018年 2000円 （税抜き）（ISBN：978-4-89347-283-0）
成績評価基準	・ I C T 機器の基本的な操作やインターネット利用ができること ・ I C T 機器の教育現場での活用法を考えられること
成績評価の方法	毎回の課題・振り返り（70%）と最終課題レポート（30%）で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	・単位互換 [KRICE] 提供科目 ・課題は、授業支援ツールを用いて提出すること（提出の仕方は授業で説明を行う）

科目名	子どもと人権	科目ナンバー	J応3208
担当者	松崎 康弘		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	<p>人権教育・保育で育成することが求められる力（セルフ・エスティームやコミュニケーション能力、正しい知識理解など）について、具体的な事例を通して学ぶ。その内容を踏まえて、実際にどのような実践が行われているかを学び、自信が教師・保育者となったときにどのような実践を行うかについて考える。</p>
授業の到達目標	<p>1. 人権教育・保育を実践するための知識や技能を習得している。 2. 人権に対する配慮をもって子どもとかわる意識を有している。</p>

授業計画		担当者
第1回	人権教育・保育の目的を学ぶ	松崎
第2回	多文化教育・保育の在り方を考える。（アイヌ学習を事例に）	松崎
第3回	ノーマライゼーションと教育・保育（障がい者の姿に学ぶ）	松崎
第4回	よりよい社会づくりのための発信について考える	松崎
第5回	社会教育と人権教育・保育との関係を考える	松崎
第6回	世界の子どもの人権をめぐる状況を学ぶ	松崎
第7回	人権教育・保育の教材開発について考える	松崎
第8回	まとめ（自分なりの人権教育を考える）	松崎
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	幼稚園教育要領や小学校学習指導要領等の人権教育に関する部分を確認する。			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	人権教育に有用な絵本等を探す。			学習合計時間(h)	15時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 14:30~16:20 研究室（西館411号室）

テキスト	特になし
参考文献等	『教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻 ～人が育ち、クラスが育ち、社会が育つ～』 国際協力機構中部国際センター 東信堂 2006年 ほか
成績評価基準	人権教育や保育を実践するために必要な基本的な知識・技能を有し、実践に生かそうとする意識を持っていること。
成績評価の方法	最終レポート（100%）
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	子どもと音楽Ⅰ	科目ナンバー	J応1157
担当者	佐藤 慶治		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	選択：幼教免・保育士証		

授業の概要	<p>クラスを前半と後半に分け、各45分で以下の演習内容を学生に行わせる：「幼児曲の弾き歌い技術および基礎的音楽理論の演習」(45分) ①グループ2名が歌唱援助者と伴奏者を分担する。②幼児曲の総合的な音楽援助について演習する。③幼児曲演奏に必要な知識や理論について演習する。</p> <p>「ピアノレッスンを通して、ピアノ奏法の基礎的能力を演習する」(45分) ①各自の演奏レベルに応じたピアノ曲の個人レッスンを演習する。②幼児曲を弾き歌いする能力を習得する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育に必要な幼児曲の歌唱援助ができるようになる。</li> <li>2. 基礎的音楽理論を理解することができる。・ピアノ課題幼児曲の演奏ができるようになる。</li> <li>3. 保育者としての基礎的な音楽に関する保育技能を高める。</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 音楽理論(譜表、幹音名ほか) ピアノ クラス分け	A・B
第2回	音楽理論(派生音名、変化記号ほか) ピアノ ピアノ テキストP29 1・2・3・4・5(B3・4・5・6・7)	A・B
第3回	音楽理論(音符、休符等の音楽記号) ピアノ テキストP30 6・7番(B44・11) こいぬのマーチ	A・B
第4回	音楽理論(拍子記号、小節等の音楽記号) ピアノ テキストP30・31(B19・16) 手をたたきましょう	A・B
第5回	幼児に対する音楽的援助1(幼稚園指導要領のねらい) ピアノ テキストP31 10番(B29)	A・B
第6回	音楽理論(幹音の音程) ピアノ テキストP34 15番(B48) きらきら星	A・B
第7回	音楽理論(派生音の音程) ピアノ テキストP35 16番(B59) ぶんぶんぶん	A・B
第8回	幼児に対する音楽的援助2(音楽的な表現) ピアノ テキストP36 17番(B66)	A・B
第9回	音楽理論(長音階の構造と作成) ピアノ ハ長調スケール(テキストP40) ちょうちょう(伴奏付け)	A・B
第10回	音楽理論(長音階の構造と作成2) ピアノ ト長調スケール(テキストP45) みずあそび(伴奏付け)	A・B
第11回	幼児に対する音楽的援助3(幼児の音楽的能力の発達) ピアノ ヘ長調スケール(テキストP48) チューリップ(テキストP48)	A・B
第12回	音楽理論(楽譜の構造1) ピアノ ニ長調スケール(テキストP50) めだかの学校(P50)	A・B
第13回	音楽理論(楽譜の構造2) ピアノ イ短調スケール(テキストP53)	A・B
第14回	音楽理論(総合的知識のまとめ) ピアノ テキストP47 34番(B78) お弁当	A・B
第15回	総合的演習(保育に必要な基礎的音楽知識のまとめ) ピアノ 試験曲および未履修曲	A・B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	ピアノ曲等の事前練習			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	ピアノ曲等の練習、発表事項の確認			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	定期試験や幼児曲歌唱演習等の課題について、個別に対応する。
質問・相談方法	オフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 13:10~14:40 研究室（本館603号室）
テキスト	『うたとあそび』 鹿児島私立幼稚園協会編 共同音楽出版 2019 価格2000円（税抜き）ISBN：978-4-7785-0416-8 『ピアノテキスト』 全国大学音楽教育学会九州地区学会 2014 価格2400円（税抜き）ISBN：978-4-7609-0338-2 『ピアノ教則本』（バイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバム等、各自のレベルに応じて）
参考文献等	特になし
成績評価基準	以下の事柄について達成できたものは合格とする。・幼児曲の歌唱演習が適切に実施できたもの・基礎的音楽理論を理解し、期末試験に合格したもの・ピアノ課題幼児曲が個人レッスンで合格し、期末実技試験で適切に演奏できたもの
成績評価の方法	音楽理論筆記試験（45%）、ピアノ実技試験（45%）、平常点（10%）：受講態度、ピアノ進度
GPA基準	
備考	A：佐藤 B：ピアノ指導 有満・稲森・窪田・高取・武田・蜷川・濱崎・古川・村原・桃坂・中村



科目名	子どもと音楽Ⅱ	科目ナンバー	J応3208
担当者	佐藤 慶治		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	選択：幼教免・保育士証		

授業の概要	<p>クラスを2グループに分け、前半と後半で以下の演習内容を学生に行わせる： ①幼児曲を使用した歌唱援助及びコードネームを主とした基礎的音楽理論の演習(45分)②指定されたバイエル96番までの課題曲及び幼児曲の弾き歌いピアノ演習(45分)③課題曲を終了した学生は選択曲を演習し、評価に加える</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育に必要な音楽の基礎理論についてさらに理解することができる</li> <li>2. 歌唱援助や弾き歌いについてさらに演習し実践できる</li> <li>3. 音楽の一般的能力を獲得することができる</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	音楽理論（音名、音階および前期復習）ピアノ テキストP39 19番(B86) サンタクロース	A・B
第2回	音楽理論（メジャーコード）ピアノ テキストP44 29番(B90) 大きな栗の木の下で	A・B
第3回	音楽理論（マイナーコード）ピアノ テキストP49 39番(B96) まつぼっくり	A・B
第4回	音楽理論（コード伴奏1）ピアノ テキストP52 44番(B80) さようならのうた	A・B
第5回	音楽理論（コード伴奏2）ピアノ テキストP54 46番(B91) おかえりのうた	A・B
第6回	音楽理論（セブンスコード）ピアノ B95番 うれしいひなまつり	A・B
第7回	音楽理論（コード作成演習）ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B
第8回	音楽理論（コード作成演習2）ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B
第9回	音楽理論（コード進行1）ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B
第10回	音楽理論（コード進行2）ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B
第11回	音楽理論（前期復習1）ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B
第12回	音楽理論（前期復習2）ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B
第13回	音楽理論（幼児曲のコード分析1）ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B
第14回	音楽理論（幼児曲のコード分析2）ピアノ 幼児曲必修曲終了後、幼児曲選択曲の中から3曲以上を履修	A・B
第15回	音楽理論（総合的演習）ピアノ 試験曲、未履修曲	A・B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	ピアノ課題曲等練習			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	ピアノ曲等の練習、発表事項の確認			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	定期試験や幼児曲歌唱演習等の課題について、個別に対応する。
質問・相談方法	オフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 14:50~16:20 研究室（本館603号室）
テキスト	『うたとあそび』 鹿児島私立幼稚園協会編 共同音楽出版 2019 価格2000円（税抜き）ISBN：978-4-7785-0416-8 『ピアノテキスト』 全国大学音楽教育学会九州地区学会 2014 価格2400円（税抜き）ISBN：978-4-7609-0338-2 『ピアノ教則本』（バイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバム等、各自のレベルに応じて）
参考文献等	なし
成績評価基準	以下の事柄について達成できたものは合格とする。・幼児曲の歌唱演習が適切に実施できたもの・基礎的音楽理論を理解し、期末試験に合格したもの・ピアノ課題幼児曲が個人レッスンで合格し、期末実技試験で適切に演奏できたもの
成績評価の方法	音楽理論筆記試験（45%）、ピアノ実技試験（45%）、平常点（10%）：受講態度、ピアノ進度
GPA基準	
備考	A：佐藤 B：ピアノ指導 中村・有満・稲森・窪田・高取・武田・蛭川・濱崎・古川・村原・桃坂

科目名	子どもと造形Ⅰ	科目ナンバー	J応1161
担当者	松下 茉莉香		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：幼教免・保育士証		

授業の概要	子どもの造形表現の中でも、保育現場で実践できるような描く活動を中心とした演習を通して、具体的な活動内容や教育的意義について明らかにする。また、乳幼児期の表現の発達過程を踏まえた上で、子どもへの適切な指導について考察できるよう解説する。さらに、多様な課題製作を行うことで描く活動の豊かさや価値を味わい、基礎的な知識や技能を身につけられるようにする。
授業の到達目標	1. 描く活動を中心とした、子どもの造形表現活動について具体的な活動内容や支援の在り方を学ぶ。 2. 多様な課題製作を通して表現の豊かさを味わい、描く活動に関する基礎的な表現技能を習得する。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	松下
第2回	感触遊びについて学ぶ：絵具を用いた感触遊びの体験（グループワーク）	松下
第3回	色に親しむ活動①：色の基礎知識について・三原色を用いた混色あそびと染め紙作り	松下
第4回	色に親しむ活動②：混色の知識を生かして身近なものの色を表す	松下
第5回	光・色・形に親しむ：トランスパレントを用いた製作	松下
第6回	表現の多様性について学ぶ①：モダンテクニックによる技法あそびを体験する	松下
第7回	表現の多様性について学ぶ②：課題製作・総括	松下
第8回	色形を写す活動①：スチレンボードを用いた版表現	松下
第9回	色形を写す活動②：ローラー遊びと版表現	松下
第10回	自然を題材とした描く活動①：身近な自然物を観察しながら形を捉える	松下
第11回	自然を題材とした描く活動②：にじみによる着彩・総括	松下
第12回	素材を用いた造形活動①：自然物の造形から見立てて描く	松下
第13回	児童文化財を用いた活動①ペープサートについて	松下
第14回	児童文化財を用いた活動②製作・練習	松下
第15回	課題発表（プレゼン発表）	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	配布資料や教科書を読み、授業の見通しを立てておく。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	各回に習得した内容について復習、整理する。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題が課された際は、求めに応じて個別に指導または授業内で課題の要点に触れる。
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 13:10~14:40 研究室(本館602号室)
テキスト	特になし。授業中に便宜資料を配布する。
参考文献等	令和3年4月時点で最新のものを使用 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省、内閣府、厚生労働省）  『幼児造形の基礎』 編著 樋口一成 萌文書林 平成30年11月9日 2400円 (ISBN: 978-4-89347-311-0)
成績評価基準	子どもの造形表現活動について具体的な活動や支援の在り方を理解し、描く活動に関する基礎的な表現技能を身につけられたか。
成績評価の方法	受講態度(10%)、作品評価(40%)、教材研究発表(40%)、鑑賞学習レポート(10%)
GPA基準	
備考	

科目名	子ども家庭福祉	科目ナンバー	J保1243
担当者	平本 譲		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [保育士証]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	保育士は、児童福祉専門職として位置付けられており、児童家庭福祉の歴史の変遷と理念について理解し、児童の権利に関する条約などで示されている児童の権利についての深い理解に基づく実践が求められている。本授業では、これらの理論に関する理解を深めるとともに、子ども家庭福祉に関する制度や法体系、実施体系、福祉施設などについて理解を深める。また、現状や課題及び現在の動向や今後の展望、あり方などについて学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する</li> <li>2. 子どもの人権擁護について理解する</li> <li>3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する</li> <li>4. 子ども家庭福祉の現状と課題、及び動向と展望について理解する</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念	平本
第2回	子ども家庭福祉の歴史の変遷	平本
第3回	子どもの人権擁護① 歴史の変遷、児童の権利に関する条約	平本
第4回	子どもの人権擁護② 子どもの人権擁護と現代社会における課題	平本
第5回	子ども家庭福祉の制度と法体系	平本
第6回	子ども家庭福祉福祉の実施体系	平本
第7回	児童福祉施設と児童福祉専門職	平本
第8回	少子化と地域子育て支援	平本
第9回	母子保健と子どもの健全育成	平本
第10回	多様な保育ニーズへの対応	平本
第11回	子ども虐待、DVとその防止及び社会的養護	平本
第12回	障害のある子どもへの対応	平本
第13回	少年非行、貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への支援	平本
第14回	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進	平本
第15回	地域における連携・協働とネットワーク	平本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業で示す事前・事後学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で児童家庭福祉、社会的養護、障害児福祉、子育て、児童虐待等の現状や課題について調べ、理解を深める			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で示す事前・事後学習課題に取り組む ・書籍、新聞、インターネット等で児童家庭福祉、社会的養護、障害児福祉、子育て、児童虐待等の現状や課題について調べ、理解を深める			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室（西館409号室）
テキスト	『四訂 子どもの福祉』 松本峰雄ら編 建帛社 2020年 2100円 (ISBN : 9784767951218)
参考文献等	『最新保育資料集2019』 大豆生田啓友ら編 ミネルヴァ書房 2019年 2200円 (ISBN : 9784623085293)
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること。
成績評価の方法	事前・事後課題（20%）と期末試験（80%）で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目 COC科目

科目名	保育者論	科目ナンバー	J保3213
担当者	丸田 愛子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	専門科目 [保育士証]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		

授業の概要	保育士という専門職の役割や責務及び倫理を理解した上で、保育者のあり方について学ぶ。また保育士の職務内容を理解し、教育・保育の現場において必要な知識を講義する。学びの総括として保育者像についてまとめ、成長・自己発揮していけるような人材の育成について講義する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育士の責務や倫理，社会的役割を理解している</li> <li>2. 乳幼児の発達の特徴及び保育のポイントを把握している</li> <li>3. 保育の現場で専門性を発揮し，自ら成長する心構えがある</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション:資質と専門性について考える	丸田
第2回	指針や要領をもとに，制度と資格，責務，倫理など保育者の役割について学ぶ	丸田
第3回	保育者の仕事について整理し，職務の理解をはかる	丸田
第4回	保育における基本姿勢(1):子ども理解を深める	丸田
第5回	保育における基本姿勢(2):保育者としての在り方を考える	丸田
第6回	保育の計画として，指導計画と保育記録に取り組み，情報機器及び教材を活用してまとめる	丸田
第7回	保育援助(1):0歳児から1歳児の生活と身体及び認知発達についてレポートにまとめる	丸田
第8回	保育援助(2):2歳児から3歳児の生活・遊び・人間関係における援助のポイントを整理する	丸田
第9回	保育援助(3):4歳児から5歳児について，集団での育ちを整理し，クラスづくりのポイントを整理する	丸田
第10回	情報機器及び教材を活用した保育実践を学び，保育技術向上を目指す	丸田
第11回	保育における協働(1):情報機器及び教材を活用し，家庭への子育て支援について整理する	丸田
第12回	保育における協働(2):情報機器及び教材を活用し，職員間と地域社会の連携について整理する	丸田
第13回	振り返り，評価，改善に取り組み保育者としての成長を目指す	丸田
第14回	保育者の専門性について考えをまとめ，グループ毎に発表，評価，改善を実施する	丸田
第15回	自らが望む保育者像を捉え，実習における抱負と課題につなげる	丸田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	幼稚園教諭・保育園長の実務経験を活かし、乳幼児の発達と保育のポイントの具体例を示し、責務や倫理など踏まえて保育士の専門性について教授する。		
事前学習	配布プリントは、資料として整理し学習内容を予習する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎授業後はまとめシートを提出する	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題については、授業内で課題の要点を解説する。指導計画案及び保育記録作成にあたっては、個別に指導・添削をする。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等を活用して対応する
オフィスアワー	火曜日 14:40～17:55 研究室（西館403号室）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『保育の実践・原理・内容 第3版』無藤隆 編 ミネルヴァ書房 2016年 2,400円（税抜き） （ISBN：978-4-623-06648-3）</li> <li>・『保育所保育指針解説』厚生労働省 平成30年 320円（税抜き）（ISBN：978-4-577-81448-2）</li> </ul>
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 平成30年 350円（税抜き）ISBN978-4-577-81449-9</li> <li>・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 平成30年 240円（税抜き）ISBN978-4-577-81447-5</li> <li>『保育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科（編）</li> </ul>
成績評価基準	教育課程と保育計画、各指導計画の基本的な知識を習得し、カリキュラム・マネジメントを踏まえた教育・保育の計画を立案できる
成績評価の方法	レポート等の提出課題の達成(80%)及び授業中の討議・発表への参加(20%)による総合評価とする
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目



科目名	社会的養護Ⅰ	科目ナンバー	J保1249
担当者	平本 讓		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [保育士証]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	社会的養護は、保護者の身体的、経済的、心理的要因による児童の養育環境の悪化や児童本人の心身状況から保護者による養育困難などにより、施設、里親などによって養育を行うことである。本科目では、現代社会における社会的養護の制度や実施体系等、社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等、および社会的養護の現状と課題について理解することを目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する</li> <li>2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系、社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する</li> <li>4. 社会的養護の現状と課題について理解する</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	社会的養護の理念と概念	平本
第2回	社会的養護の歴史の変遷	平本
第3回	子どもの人権擁護と社会的養護	平本
第4回	社会的養護の基本原則	平本
第5回	社会的養護における保育士等の倫理と責務	平本
第6回	社会的養護の制度と法体系	平本
第7回	社会的養護の仕組みと実施体系	平本
第8回	社会的養護の対象	平本
第9回	家庭養護と施設養護	平本
第10回	社会的養護に関する専門職	平本
第11回	社会的養護に関する社会的状況	平本
第12回	施設等の運営管理	平本
第13回	被措置児童等の虐待防止	平本
第14回	社会的養護と地域福祉	平本
第15回	これからの社会的養護	平本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業で示す事前・事後学習課題に取り組む			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	書籍、新聞、インターネット等で児童家庭福祉、社会的養護、児童虐待等の現状や課題について調べ、理解を深める			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室（西館409号室）
テキスト	『改訂 子どもの養護－社会的養護の基本と内容－』 松本峰雄・和田上貴昭編 建帛社 2018年 2200円 （I S B N： 978 - 4 - 7679 - 5073 - 0）
参考文献等	『やさしくわかる社会的養護 シリーズ1～7』 相澤仁編集代表 明石出版 2012年～2014年 各2400円 （I S B N：9784750337197） （1巻）
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること
成績評価の方法	事前・事後課題（20%）と期末試験（80%）で総合的に評価する
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	保育の心理学	科目ナンバー	J保3112
担当者	平嶋 慶子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	専門科目 [保育士証]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	人の生涯の発達変化を概観し基礎理解を図る。発達の定義や原則と現代の発達理論を学ぶ。乳幼児期の発達特性と発達に応じた援助や関わり方を学ぶ。就学前保育・教育の意義と学びの過程で環境との相互作用の重要性を理解する。
授業の到達目標	保育実践に関わる発達の基礎を理解し、発達理論を学び、人の心理的発達を捉える視点を持つ。発達心理学の理解を通して、養護と教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子ども理解を深める。乳幼児期の発達と学びの過程や特性について基礎的知識を学び、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

授業計画		担当者
第1回	人の一生にわたる発達変化と教育・保育の普遍的必要性について	平嶋
第2回	発達の定義と発達段階及び乳幼児期の特性	平嶋
第3回	発達の原則と初期経験及び発達の可塑性について	平嶋
第4回	発達の規定因と発達理論及び子ども観	平嶋
第5回	環境や人との相互的関わり的重要性	平嶋
第6回	子どもの発達：運動と身体的機能	平嶋
第7回	子どもの発達：言語とコミュニケーション能力	平嶋
第8回	子どもの発達：認知	平嶋
第9回	子どもの発達：社会情緒的能力	平嶋
第10回	乳幼児期の学びと保育の意義	平嶋
第11回	活動・遊び（学び）の原動力となる動機づけ、意欲など	平嶋
第12回	乳幼児期の学びの過程と特性	平嶋
第13回	乳幼児期の学びを支える人との関わり：友達と保育者	平嶋
第14回	乳幼児期の学びとその土台となる環境について：子どもにとって有意義な体験とは	平嶋
第15回	子どもの発達と就学前保育・教育の関係について	平嶋

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	配布された資料は毎回持参し、一読しておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中に触れたキーワードについて調べてまとめる			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合（期末試験を含む）は求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月・水・金曜日 16:10~17:00 研究室（西館416号室）
テキスト	『新・プリマーズ/保育/心理 保育の心理学 』 河合優年/中野茂 編著 2013 ミネルヴァ書房 2000円（I S B N： 978-4-623-06513-4）
参考文献等	授業中適宜紹介する
成績評価基準	発達の基礎理解と乳幼児の特性及び保育の重要性の関係について理解できたものは合格とする。
成績評価の方法	筆記試験（80%）と授業への参加態度（20%）を総合評価する。
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	子どもの保健	科目ナンバー	J保1140
担当者	宇都 弘美		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [保育士証]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	小児期の区分や子どもの発達について理解し、統計から見た子どもの健康に関する現状を確認して、それに対する母子保健施策を学ぶ。さらに、病気の予防や子どもが罹りやすい病気とその対応についても理解を深める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>小児期の区分や子どもの発達について理解する</li> <li>統計から見た健康に関する現状を知り、それに対する施策を学ぶ</li> <li>病気の予防や子どもが罹りやすい病気とその対応を学ぶ</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	保育保健の意義・範囲、健康の概念、子どもの定義	宇都
第2回	出生前の成長と出生後の身体発育	宇都
第3回	生理機能の発達	宇都
第4回	運動機能の発達	宇都
第5回	子どもにかかわる統計	宇都
第6回	子どものための保健対策（母子保健行政）	宇都
第7回	新生児・未熟児	宇都
第8回	保健管理①（日常の健康状態の把握）	宇都
第9回	保健管理②（健康診断）	宇都
第10回	出生前の原因による病気	宇都
第11回	病気の予防①（よい生活習慣の確立）、子どもの病気の主な症状	宇都
第12回	子どもの病気①（ウイルス性感染症）	宇都
第13回	子どもの病気②（細菌性感染症）	宇都
第14回	病気の予防②（予防接種）	宇都
第15回	子どもの病気③（感染症以外の病気）	宇都

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
					○
担当教員の実務経験と授業の関連	看護師・助産師の実務経験を活かして、子どもの保健について教授する。				
事前学習	事前学習として授業内容をシラバスで確認し、該当箇所を予習すること。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業後には事後学習として復習をして、授業内容の確認をすること。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合（定期試験を含む）求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 16:30～18:00 研究室（西館306号室）
テキスト	『保育を学ぶ人のための子どもの保健』 堀浩樹他編著 建帛社 2019
参考文献等	『子どもの保健 第7版追補』 巷野悟郎編 診断と治療社 2018年（ISBN：978-4-7878-2353-3）
成績評価基準	授業の到達目標の小児期の区分や子どもの発達、統計上の子どもの健康課題やそれに対する施策、子どもの病気について、学べているかを問う課題（期末試験）に対して、6割以上の得点を合格とする。
成績評価の方法	定期試験（100%） 90分で実施
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	子どもの健康と安全	科目ナンバー	J保1241
担当者	宇都 弘美		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [保育士証]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		

授業の概要	子どもの健康管理に必要な技術及び安全に係る保健活動について、子どもの心身の不調に対応するための観察ポイントや処置、事故を予防するための環境管理を具体的に理解する。さらに、実習に向けて、保育者としての自身の健康管理や地域の資源の活用についても学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動のしくみを学ぶ</li> <li>2. 子どもの心身観察ポイントや処置、事故とその予防を学ぶ</li> <li>3. .実習に向けて、自身の健康管理や地域の資源の活用について学ぶ</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	講義ガイダンス、班分け、保健活動の考え方	宇都
第2回	健康状態の観察と方法（バイタルサインの観察）	宇都
第3回	衛生管理と感染予防・手洗い	宇都
第4回	感染症発生時と罹患後の対応	宇都
第5回	事故と対策、事故防止グッズの紹介	宇都
第6回	応急処置、ケガの手当て	宇都
第7回	運搬法	宇都
第8回	危機管理、災害への備え	宇都
第9回	心肺蘇生法	宇都
第10回	個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患・アレルギー疾患等）	宇都
第11回	障害のある子どもへの対応	宇都
第12回	健康及び安全管理	宇都
第13回	保健活動における家庭との連携	宇都
第14回	母子保健・地域保健における連携と協働	宇都
第15回	保健計画と保健活動及び評価	宇都

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	看護師・助産師の実務経験を活かして、子どもの健康及び安全に係る保健活動について教授する。		
事前学習	事前学習として授業内容をシラバスで確認し、該当箇所を予習すること。	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	授業後には事後学習として復習をして、授業内容の確認をすること。	学習合計時間(h)	15時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合（定期試験を含む）求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室（西館306号室）

テキスト	『子どもの保健・実習 第3版』 兼松百合子他編著 同文書院 2019年
参考文献等	『子どもの健康と安全 演習ノート』 小林美由紀他編著 診断と治療社 2019年（ISBN：978-4-7878-2406-6）
成績評価基準	授業の到達目標の子どもに対する保健活動の仕組みや健康観察ポイント、事故について、学べているかを問う課題（小テスト）と応急処置の技術試験および演習への参加態度を総合的に評価し、6割以上の得点を合格とする。
成績評価の方法	演習への取り組み状況（授業態度：30%） 技術試験（20%） 期末試験（50%）
GPA基準	
備考	



科目名	子どもの理解と援助	科目ナンバー	J保1242
担当者	平嶋 慶子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [保育士証]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	保育実践において、乳幼児を理解し実態を把握する意味を考え、様々な子どもの姿から多様な子ども理解の視点を学ぶ。子どもを理解の方法を学ぶ。子ども一人ひとりの育ちの援助のあり方と、子どものありのままの姿を受け入れる態度を理解する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども一人ひとりの心身の発達や学びを、実態に応じて把握することが保育実践にいて重要であること及びその意義を理解する。</li> <li>2. 子どもが体験したり、学ぶ過程において子どもを理解するための基本的な考え方を理解する。</li> <li>3. 子どもを理解するための具体的方法を知り、それに基づく保育者の援助や態度の基本を理解する。</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	集団の保育の実践場面における子どもの育ちと、一人ひとりを理解することの意味について	平嶋
第2回	養護と教育が一体となった保育と子どもの育ち	平嶋
第3回	子どもに対する共感的理解が子どもとの良好な関係を築くこと	平嶋
第4回	子どもを理解する視点：生活と遊び	平嶋
第5回	子どもを理解する視点：人的環境としての保育者・子どもにとっての有意義な環境とは	平嶋
第6回	子どもを理解する視点：子ども相互の関わりや子ども集団における経験と育ち	平嶋
第7回	子どもを理解する視点：葛藤やつまずき、喧嘩やトラブルを通して育つもの	平嶋
第8回	子どもを理解する方法：心理的手法と具体的実践的方法について	平嶋
第9回	子どもを理解する方法：観察と記録	平嶋
第10回	子どもを理解する方法：子どもの観察・記録から何を読み取れば良いか（省察・評価の考え方）	平嶋
第11回	子どもを理解する方法：職員間の連携及び保護者との情報共有の必要性	平嶋
第12回	発達段階と発達段階を踏まえた援助のあり方：乳児期・幼児期前期	平嶋
第13回	発達段階と発達課題を踏まえた援助のあり方：幼児期以降（認知・言語・社会性）	平嶋
第14回	発達につまずきや遅れ発達障がいを持った子どもの理解と援助のあり方	平嶋
第15回	子どもと保育者の相互的関わりを促す基本の態度・発達の連続性を保障するための小学校就学支援	平嶋

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	配布された資料は毎回持参し、一読しておく			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	テキストの学習後にワークシートや自己調べの課題をすることによって理解を深める			学習合計時間(h)	15時間

課題に対する フィードバックの 方法	ワークシートや自己調べのレポートについて授業中全体的にフィードバックする。
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月・水・金曜日 16:10~17:00 研究室（西館416号室）

テキスト	『子ども理解と援助』 高嶋 景子, 森上 史朗, 砂上 史子編 ミネルヴァ書房 2200円 (I S B N : 978-4-623-05962-1)
参考文献等	授業中に適宜紹介する。
成績評価基準	前期の学習や幼稚園実習Ⅰにおける幼児の実際の観察経験から子どもを理解する多様な方法や視点を学べたものを合格とする。
成績評価の方法	4回程度のワークシートの記入と最終レポート（80%）と授業への参加態度（20%）を総合評価する
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	乳児保育Ⅰ	科目ナンバー	J保1147
担当者	宇都 弘美		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [保育士証]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	乳児保育の理念や役割について学び、現状と課題について理解する。また、3歳未満児の成長・発達について学び、保育の内容や方法、計画や記録の仕方の理解を深める。家庭や地域、関係機関との連携についても学ぶ。
授業の到達目標	1. 乳児保育の現状と課題について理解する 2. 3歳未満児に対する保育の内容や方法、計画や記録について学ぶ 3. 家庭や地域、関係機関との連携について学ぶ

授業計画		担当者
第1回	乳児保育とは、乳児保育の歴史、家庭保育と集団保育	宇都
第2回	家庭生活と園生活、乳児保育が行われる場所	宇都
第3回	3歳未満児の発達の特徴と保育①（自我の発達、ビデオ）	宇都
第4回	3歳未満児の発達の特徴と保育②（言葉の発達、ビデオ）	宇都
第5回	3歳未満児の発達の特徴と保育③（保育所保育指針を用いて）	宇都
第6回	乳児保育における養護及び教育	宇都
第7回	乳児の日常生活と保育環境①（乳児期前半）	宇都
第8回	乳児の日常生活と保育環境②・遊び（乳児期後半）	宇都
第9回	日常生活と保育環境・遊び①（1歳児を中心に）	宇都
第10回	日常生活と保育環境・遊び②（2歳児を中心に）	宇都
第11回	3歳未満児の保育における配慮点	宇都
第12回	保育計画と記録①（保育課程と指導計画）	宇都
第13回	保育計画と記録②（年間・月間計画、週案など）	宇都
第14回	3歳未満児の保育における連携・協働（職員・保護者・地域の連携機関）	宇都
第15回	3歳未満児の保育を支える制度や連携と今後の課題	宇都

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
					○
担当教員の実務経験と授業の関連	助産師の実務経験を活かして、3歳未満児の保育について教授する。				
事前学習	事前学習として授業内容をシラバスで確認し、該当箇所を予習すること。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業後には事後学習として復習をして、授業内容の確認をすること。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合（定期試験を含む）求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 16:30～18:00 研究室（西館306号室）

テキスト	『はじめて学ぶ乳児保育 第2版』 志村聡子編著 同文書院 2019
参考文献等	『平成30年度施行 新要領・指針サポートブック』 保育総合研究会監修 世界文化社 2018 (ISBN: 978-4-418-17722-6)
成績評価基準	授業の到達目標のうち、特に3歳未満児に対する保育の内容や方法、計画や記録について学べているかを問う課題（レポート提出）および定期試験の成績を合わせて、6割以上の得点を合格とする。
成績評価の方法	レポート課題（20%）、定期試験（90分で実施：80%）
GPA基準	
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目

科目名	乳児保育Ⅱ	科目ナンバー	J保1248
担当者	宇都 弘美		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [保育士証]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:保育士証		

授業の概要	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解し、子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。また、乳児保育における配慮の実際について、具体的に学ぶ。
授業の到達目標	1. 3歳未満児の発達特性を踏まえた援助や関わりを学ぶ 2. 3歳未満児の生活や援助を具体的に理解する 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に学ぶ

授業計画		担当者
第1回	講義ガイダンス、班分け、日課と保育環境	宇都
第2回	3歳未満児の生活の援助①（乳児の抱き方・寝かせ方）	宇都
第3回	3歳未満児の生活の援助②（調乳、授乳の仕方）	宇都
第4回	3歳未満児の生活の援助③（離乳食の食事介助）	宇都
第5回	3歳未満児の生活の援助④（歯磨きの指導、仕上げ磨き）	宇都
第6回	3歳未満児のあそびと援助①（触れ合い遊び、ビデオ視聴）	宇都
第7回	3歳未満児のあそびと援助②（模倣遊びなど）	宇都
第8回	乳児保育における配慮	宇都
第9回	乳児保育における安全管理の実際	宇都
第10回	個別的な指導計画と集団の指導計画	宇都
第11回	指導計画作成演習	宇都
第12回	3歳未満児の生活の援助⑤（おもちゃ交換）	宇都
第13回	3歳未満児の生活の援助⑥（清拭）	宇都
第14回	3歳未満児の生活の援助⑦（沐浴）	宇都
第15回	演習のまとめと保育実習に向けて	宇都

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連	助産師の実務経験を活かして、3歳未満児の保育について教授する。				
事前学習	シラバスを用いて授業内容を確認し、テキストの該当の所を事前に読んで予習をする			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	乳児モデルを用いた演習後は、次の授業までに理論の復習と実技の復習をして、技術の定着に務める			学習合計時間(h)	15時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合（定期試験を含む）求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室（西館306号室）

テキスト	前期に使用した『はじめて学ぶ乳児保育 第2版』 志村聡子編著 同文書院 2019
参考文献等	『乳児の生活と保育 第3版』 松本園子編著 ななみ書房 2019 (ISBN: 978-4-903355-82-5)
成績評価基準	授業の到達目標の3歳未満児の生活や援助の理解の中の清潔援助の技術試験および演習への参加態度を総合的に評価し、6割以上の得点を合格とする。
成績評価の方法	演習への取り組み状況（授業態度）（30%） 技術試験（70%）
GPA基準	
備考	

科目名	保育所実習Ⅰ指導	科目ナンバー	J保2210
担当者	丸田 愛子、藤川 和也、平嶋 慶子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目 [保育士証]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:保育士証		

授業の概要	保育所実習Ⅰに向けて保育実習の意義・目的および内容を理解する。子どもの人権と最善の利益を確認し、子どもの生活や保育士の仕事について学ぶ。実習目標や自己課題の設定など心構えと準備について講義する。実習内容として、観察・援助の仕方や実習記録・指導案の書き方、実習後の自己評価と今後の学習目標について学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの人権や生活、保育士の仕事等を十分理解している</li> <li>2. 保育者としての責任感、使命感を有している</li> <li>3. 実習に必要な知識を有し、実習準備・学習が行えている</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	保育実習の目的と内容、保育所実習までの流れ	A
第2回	子どもの人権と最善の利益、保育所的一天	B
第3回	実習に向けての準備と心構え	B
第4回	保育における観察・援助の方法	B
第5回	保育記録及び指導案の作成	B
第6回	事前訪問について	A
第7回	実習目標、自己課題と実習計画の立て方	A
第8回	腸内細菌検査について	B
第9回	検査結果配布と実習準備の確認	B
第10回	実習事後指導、レポート提出	A
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	○
担当教員の実務経験と授業の関連	幼稚園教諭・保育園長の実務経験を活かし、保育士の業務、責務、実習に必要な知識を教授する				
事前学習	授業内容をシラバスやテキストで確認し、予習をおこなう			学習合計時間(h)	10時間
事後学習	復習をし、計画的な実習準備をおこなう			学習合計時間(h)	10時間

課題に対する フィードバックの 方法	課題を課した場合、授業内で要点を解説する。 指導計画立案及び保育記録の作成は、個別に添削指導をする。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等を活用して対応する
オフィスアワー	丸田：火曜日 14:40～17:55 研究室（西館403号室） 藤川：月曜日 14:00～16:00 研究室（西館405号室） 平嶋：月曜日 16:30～18:00 研究室（西館416号室）
テキスト	『保育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科（編）
参考文献等	『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子編 同文書院 2018年 2,000円 (税抜き) (ISBN-13: 978-4810314755)
成績評価基準	教育課程と保育計画、各指導計画の基本的な知識を習得し、カリキュラム・マネジメントを踏まえた教育・保育の計画を立案できる
成績評価の方法	実習の取り組み（50%）とレポート（実習終了報告書）（50%）で総合的に評価する
GPA基準	
備考	A:丸田愛子、平嶋慶子、藤川和也 B:丸田愛子



科目名	保育所実習Ⅰ	科目ナンバー	J保2209
担当者	丸田 愛子、藤川 和也、平嶋 慶子		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目 [保育士証]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:保育士証		

授業の概要	児童福祉施設としての保育所の機能、保育士の仕事や職業倫理について学び、実際に子どもや保育士の姿に触れることを通して、子どもの生活や発達及び保育者の援助について理解を深める。既習の理論や技能を実践し観察・参加実習を通して保育技術の体験的理解をはかる。自身の知識や技能が及ばないところに関しては自己課題と捉え習得を目指す。保育士を目指す動機や必要な資質、社会人としての責任ある行動について確認し向上心を養う。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の機能・役割・生活や保育士の仕事を理解している</li> <li>2. .乳幼児の発達や保育援助について、具体的に学習している</li> <li>3. 担当保育等を通して、実践力を身につける</li> </ol>

授業計画		担当者
第1回	保育所の目的・役割・機能	A
第2回	保育所における乳幼児の一日の生活や遊び	A
第3回	保育士の援助・かかわり方（保育活動）	A
第4回	一人ひとりの子ども・集団の姿やその発達	A
第5回	環境構成	A
第6回	保育課程と保育計画	A
第7回	保育士とその他職員の仕事・役割、職員間の連携	A
第8回	保育所と家庭・地域との関係	A
第9回	保育参加（0歳児クラス）	A
第10回	保育参加（1歳児クラス）	A
第11回	保育参加（2歳児クラス）	A
第12回	保育参加（3歳児クラス）	A
第13回	保育参加（4歳児クラス）	A
第14回	保育参加（5歳児クラス）	A
第15回	実習のまとめ	A

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	
担当教員の実務経験と授業の関連	幼稚園教諭・保育園長の実務経験を活かし、乳幼児の発達や保育士の援助について事例を示し教授する				
事前学習	「保育所実習Ⅰ指導」の授業と並行して計画的に実習準備を進める			学習合計時間(h)	10時間
事後学習	実習後は振り返りをし、自己課題を明確にする			学習合計時間(h)	10時間

課題に対する フィードバックの 方法	実習施設から課題を出された場合、個別に指導添削を受ける。
質問・相談方法	実習時間の前後に電話連絡で対応する
オフィスアワー	丸田：火曜日 14:40～17:55 研究室（西館403号室） 藤川：月曜日 14:00～16:00 研究室（西館405号室） 平嶋：月曜日 16:30～18:00 研究室（西館416号室）
テキスト	『保育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科（編）
参考文献等	『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子(編者) 同文書院 2018年 2,000円 (税抜き) (ISBN-13: 978-4810314755)
成績評価基準	保育所の機能・役割、保育士の仕事や乳幼児の発達や保育援助について具体的に学習すること
成績評価の方法	本学の定めた評価表に従って、①実習の態度②保育・援助の実践③実習の記録の観点から、各実習 先が評価する（100%）
GPA基準	
備考	A:実習施設担当者